

SBIホールディングス株式会社 インフォメーション ミーティング

2008年11月25日(火) 大阪

11月26日(水) 名古屋

11月29日(土) 東京

本資料に掲載されている事項は、SBIホールディングス株式会社によるSBIグループの業績、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、SBIグループ各社の発行する株式その他の金融商品への投資の勧誘を目的としたものではありません。

また、当社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。

なお、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

- 第1部 未曾有の厳しい事業環境と
2009年3月期 第2四半期業績**

- 第2部 現在の事業環境の継続を前提とした
今後1、2年間の展開**

- 第3部 中期的に大いなる飛躍を目指した打ち手**

第1部 未曾有の厳しい事業環境と 2009年3月期 第2四半期業績

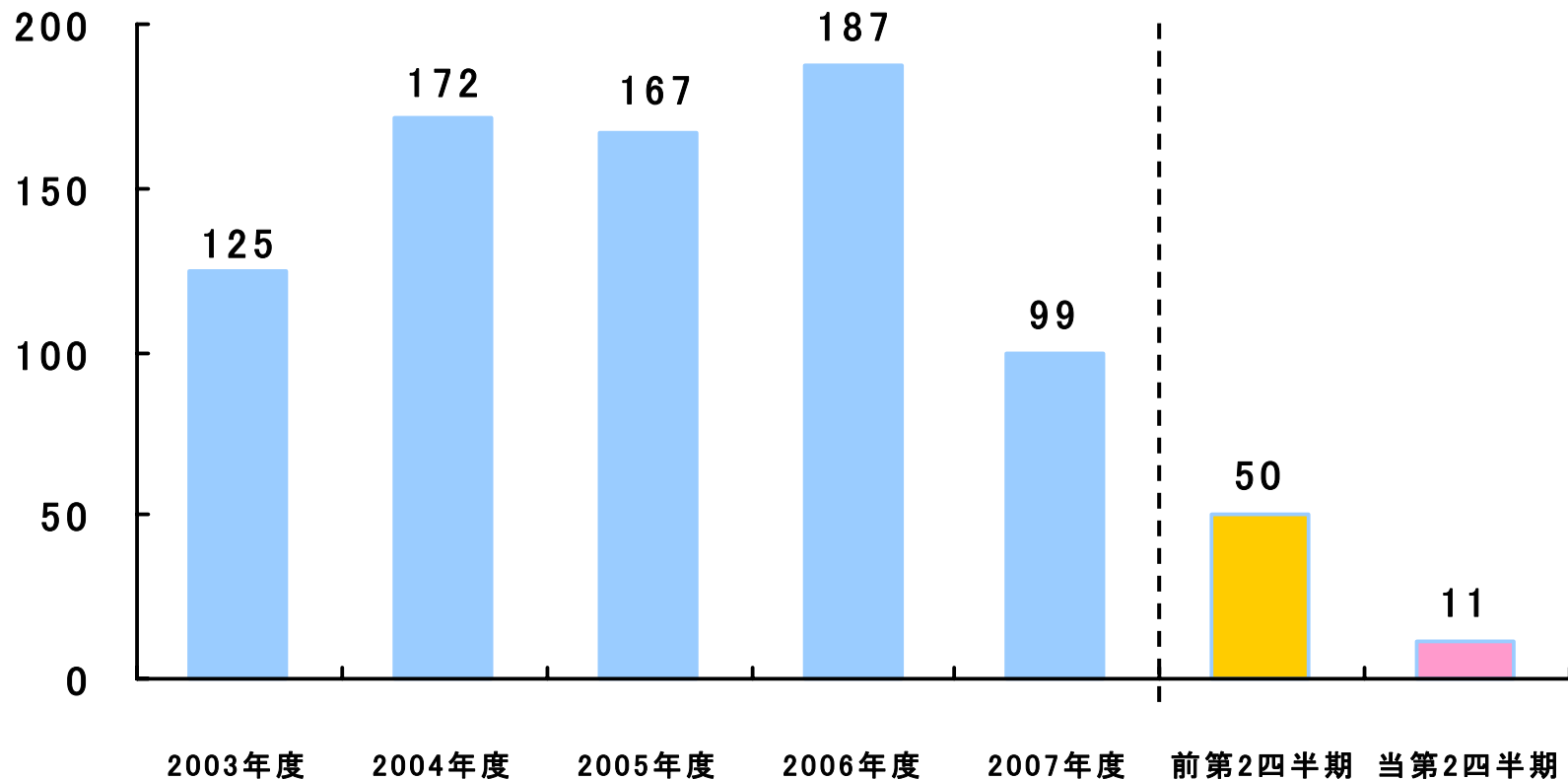
(1) 未曾有の厳しい事業環境

国内の新規上場会社数の推移

2007年度の上場会社数は100社を下回り過去5年間で最低の上場会社数で着地。

当第2四半期は2007年度の第2四半期実績を更に大きく下回る11社のみ。

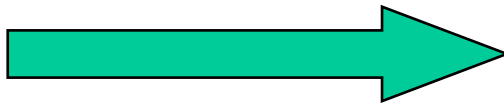
(単位:社)



出所:各取引所

世界的に下落してきた株式相場

10月28日に日経平均がバブル後最安値を更新する**6994.90円**をつけるなど世界的な株価の下落が世界を襲った。



世界の株式時価総額:

2007年10月末のピークから**3000兆円消失**

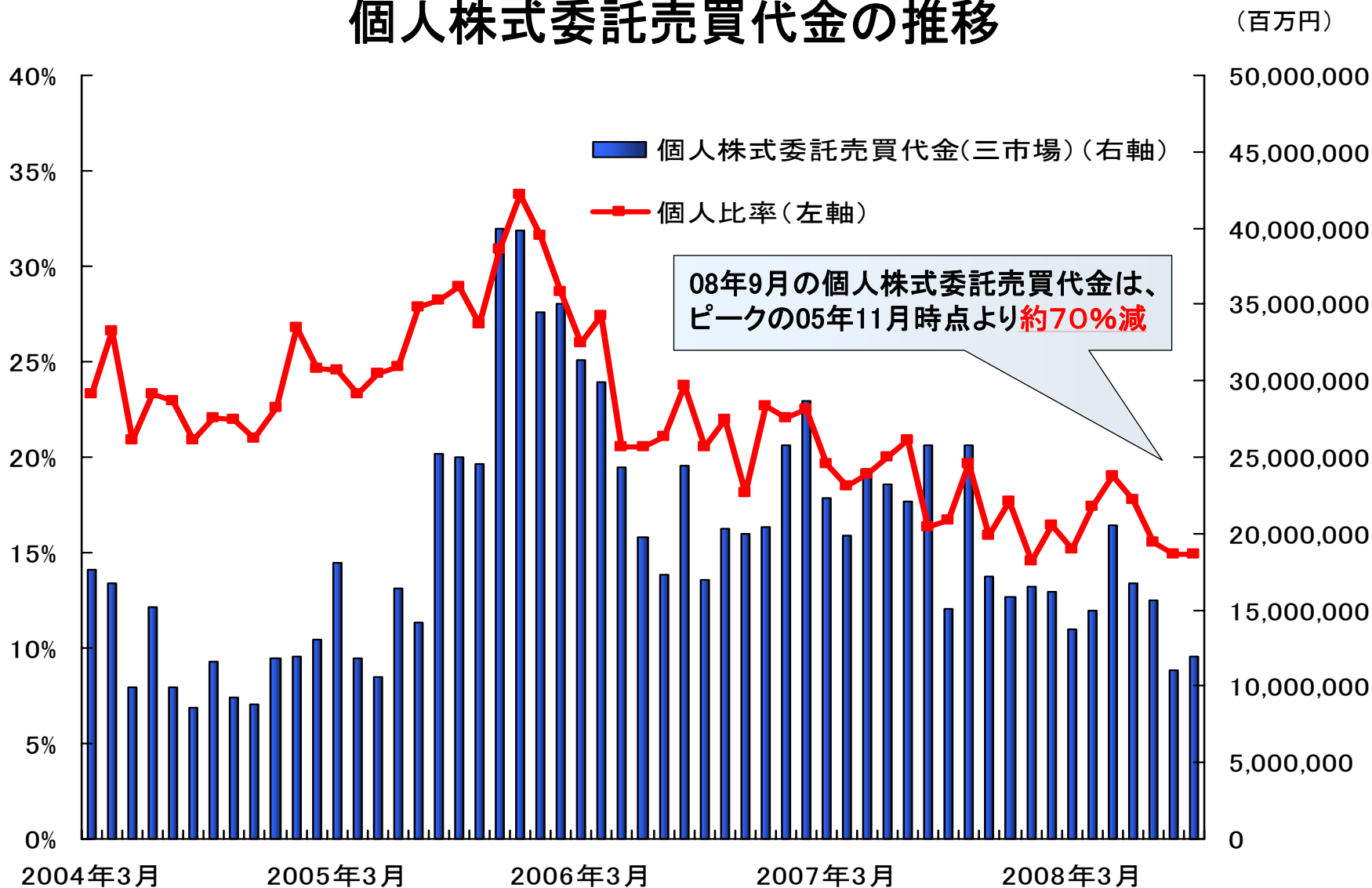
2007年10月末からの
世界主要株式市場の下落率(抜粋)
(単位:%)

ロシア	75.3
中国	69.1
シンガポール	57.5
インド	56.1
韓国	54.5
日本	54.3
ブラジル	51.8
ドイツ	46.4
英国	42.2
米国	39.8

記事

第2四半期までの個人株式委託売買代金は減少傾向

個人株式委託売買代金の推移



深刻化する不動産市況の低迷

「事業用不動産取引4割減」

(2008年9月)

オフィスビルや商業用不動産の大口取引は～
三ヶ月連続して前年同月比四割減となった。

記事

2008年10月28日、日経産業新聞より抜粋

「東証REIT指数は、年初より約60%下落」

(2008年11月)

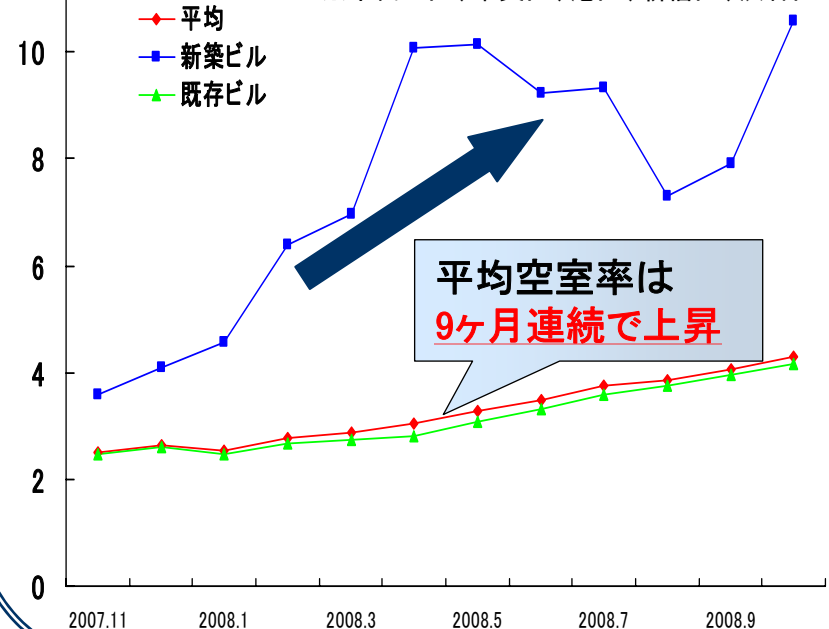
- ・9月24日、上場REIT運用会社のスポンサー企業であったリプラスが破綻
- ・10月9日、ニューシティ・レジデンス投資法人が民事再生法申請、J-REIT初の破綻

「東京都心部でもオフィスビルの空室率が上昇」

(%)

東京ビジネス地区(都心5区)の空室率推移

※千代田区、中央区、港区、新宿区、渋谷区



平均空室率は
9ヶ月連続で上昇

(2) 2009年3月期 第2四半期業績

2009年3月期 第2四半期 連結決算業績

(単位:百万円)

	2008年3月期 2Q累計連結決算	2009年3月期 2Q累計連結決算	前年同期比 増減率(%)
売上高	118,031	71,747	▲39.2
営業利益	23,409	6,330	▲73.0
経常利益	20,937	4,773	▲77.2
税引前利益	25,075	1,275	▲94.9
当期純利益	8,938	▲1,523	—

四半期連結業績推移

(単位:百万円)

	2008年3月期			2009年3月期	
	第2四半期 (2007年7~9月)	第3四半期 (2007年10~12月)	第4四半期 (2008年1~3月)	第1四半期 (2008年4~6月)	第2四半期 (2008年7~9月)
売上高	61,945	52,082	52,454	34,603	37,143
営業利益	10,688	9,482	9,714	3,908	2,421
経常利益	8,747	7,062	7,687	3,296	1,476
税引前利益	8,832	5,538	※1 ▲1,794	※2 ▲7,327	※3 8,602
当期純利益	3,034	1,584	▲6,294	▲5,908	4,385

※1 2008年3月末の時価に基づく関係会社(ゼファー社等)株式の減損処理に伴うのれんの一括償却等93億円を特別損失に計上

※2 民事再生手続開始の申立てを行ったゼファー社株式に対して関係会社株式評価損94億円を特別損失に計上

※3 E*TRADE Korea株式の譲渡に伴い、104億円の特別利益を計上

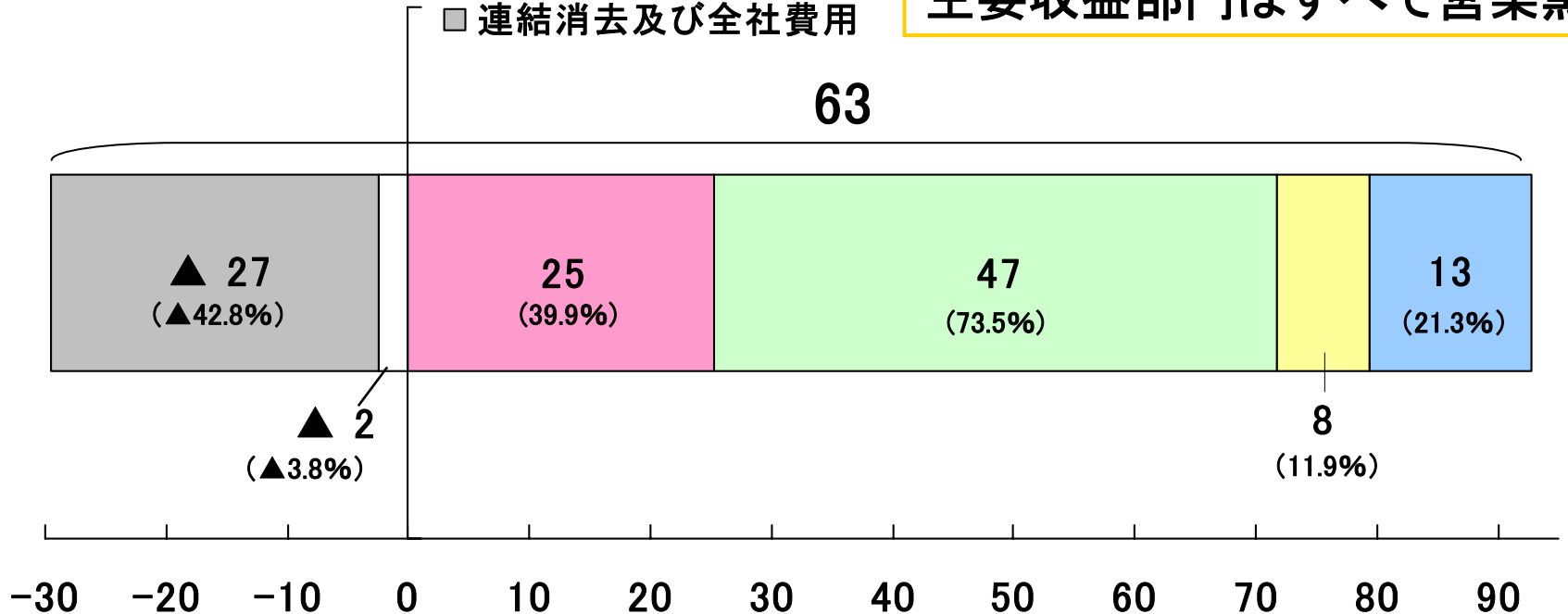
営業利益の構成比較

2009年3月期
2Q累計 営業利益

- アセットマネジメント
- ブローカレッジ&インベストメントバンキング
- ファイナンシャル・サービス
- 住宅不動産関連
- システムソリューション
- 連結消去及び全社費用

(単位:億円)

主要収益部門はすべて営業黒字



※ 億円未満を四捨五入した数字です。

主要事業部門で営業黒字を確保

極めて厳しい事業環境ながら、アセットマネジメント事業、証券関連事業、ファイナンシャル・サービス事業、住宅不動産事業はいずれも営業黒字を確保

特別利益で特別損失を補えなかったことにより最終黒字はならず

ゼファー株式やSBI証券の保有ファンドの売却により投資有価証券売却損120億円を特別損失に計上。E*TRADE Korea株式の売却による投資有価証券売却益は、韓国ウォン相場の下落により104億円にとどまる

E*TRADE Korea株式の譲渡完了

【株式譲渡の概要】

- ①日程：
 - 2008年4月10日：基本合意書の締結
 - 2008年9月26日：韓国金融委員会の承認
 - 2008年9月29日：株式譲渡完了

- ②譲渡先：
 - G&A KBIC PRIVATE EQUITY FUND

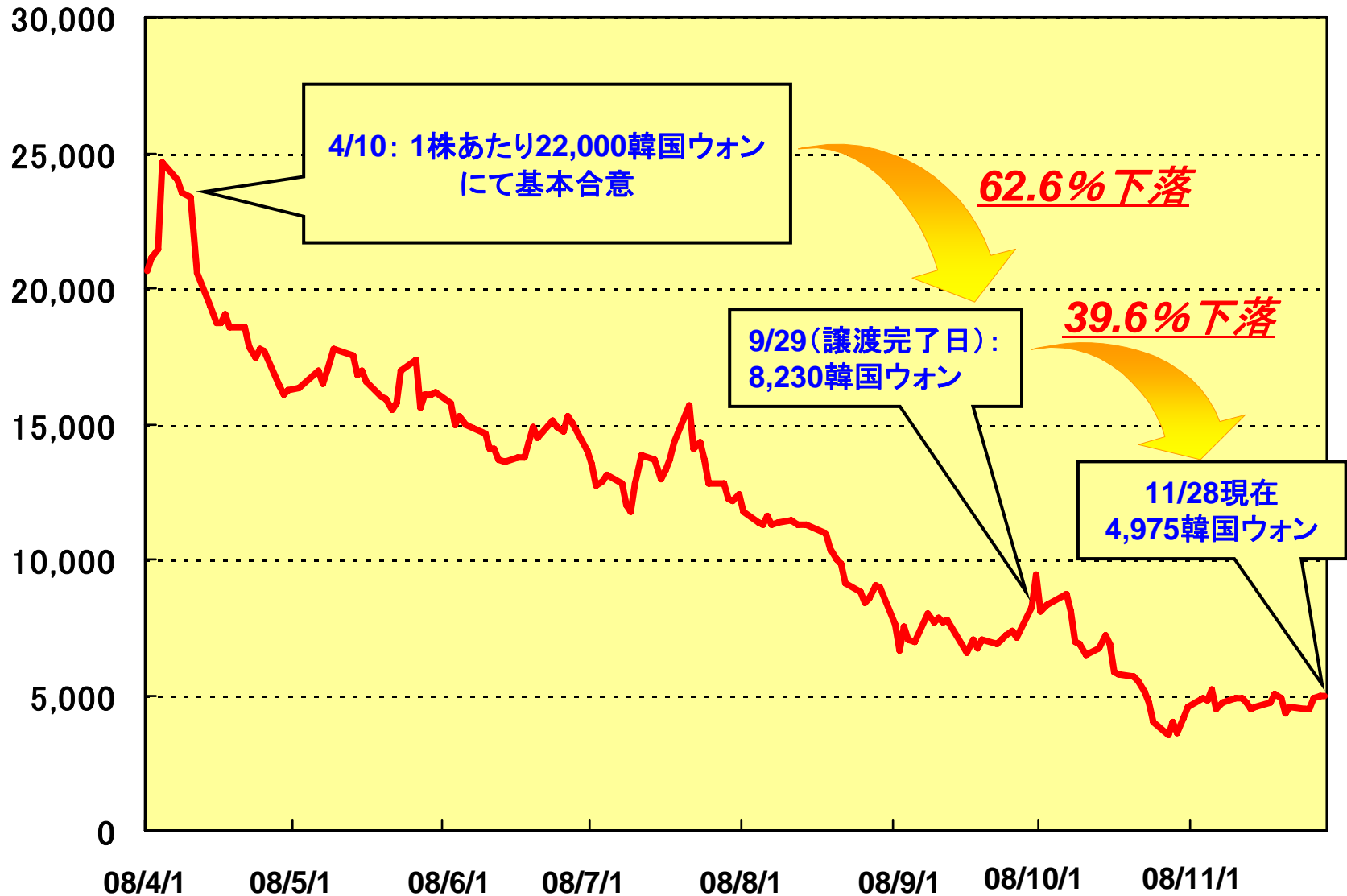
- ③譲渡株式数：
 - 9,744,000株（発行済株式総数の71.4%）

- ④譲渡金額：
 - 214,368百万韓国ウォン
 - （1株あたり22,000韓国ウォン）

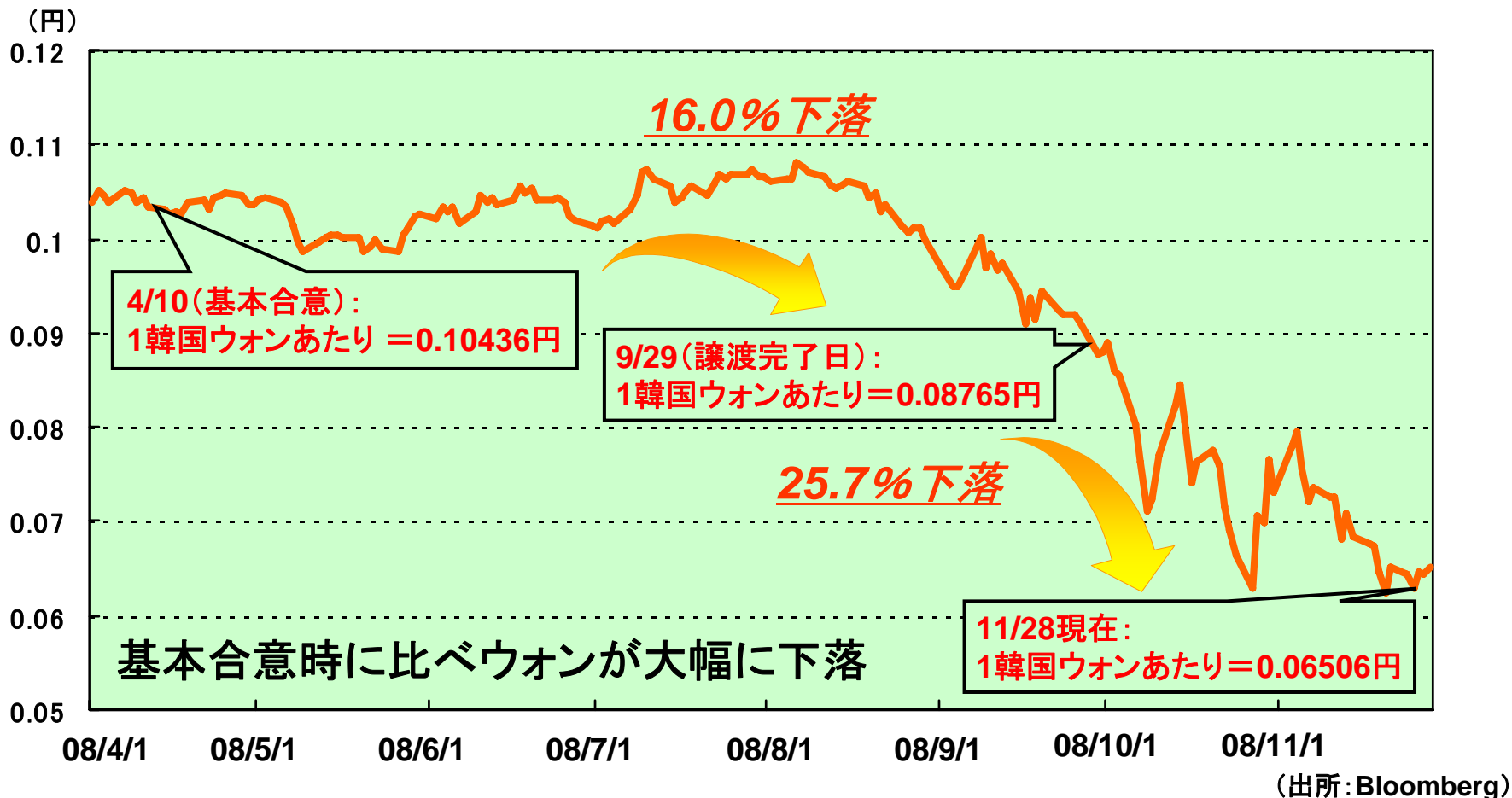
※ 2008年9月29日の株価は8,230韓国ウォン
2008年11月19日の株価は4,885韓国ウォン

E*TRADE Korea株式の価格推移

(韓国ウォン)



韓国ウォン・日本円との為替レート推移



	基本合意時(試算)※	2Q決算(確定)
特別利益計上額	139億円	104億円
当期純利益への影響額	82億円	62億円

※ 基本合意時点でSBI証券がSBIホールディングスの完全子会社であったと仮定して算出

(3) 主要事業の同業他社との比較

主要VCとの比較(1)

主要VC各社と当社アセットマネジメント事業の2008年4-9月期業績

(単位: 億円、%)

	売上高	前期比 増減率	営業利益	前期比 増減率
SBI アセットマネジメント事業	87	▲78.3	25	▲67.8
JAFCO (※自己持ち分方式)	141	▲20.7	15	▲66.6
大和SMBCキャピタル	67	▲41.2	▲31	- (注2)
日本アジア投資	53	▲33.4	▲91	- (注3)

(データ出所: 各社開示資料より当社にて集計)

(注1) JAFCOは自己持ち分方式で開示、他3社は決算に採用しているファンド連結後の数値

(注2) 前年度の営業利益は▲42億円となっております。

(注3) 前年度の営業利益は19億円となっております。

(注4) 億円未満を四捨五入して表示しております。

主要VCとの比較(2)

(単位:百万円)

	投資実行額			
	当2Q (7月~9月)	当上期累計 (4月~9月)	(参考) 前上期累計	(参考) 前通期累計
SBI アセットマネジメント事業	23, 543	50, 716	48, 740	101, 041
JAFCO	8, 317	23, 027	28, 493	39, 094
日本アジア投資	6, 042	10, 526	12, 358	23, 950
大和SMBCキャピタル	4, 326	6, 309	7, 546	15, 420

(データ出所:各社開示資料より当社にて集計)

(注) 投資実行額は、各社および各社グループが運営する投資事業組合等の投資実行額の合計であります。

SBI証券の証券業界におけるポジショニング(1)



(口座数、収益・2009年3月期第2四半期累計連結業績)

口座数ランキング

単位:口座

1	野村 ※1	4,281,000
2	大和 ※2	3,088,000
3	日興 ※3	2,384,000
4	SBI	1,735,589
5	三菱UFJ ※4	1,207,000
6	新光	1,048,000
7	マネックス	864,064
8	楽天 ※5	773,169
9	松井	750,872
10	カブドットコム	639,832

(出所:主要証券各社開示資料より当社にて把握しうる限りの情報を基に作成)

※1 残有口座数

※2 2008年6月末時点

※3 日興は日興コーディアル証券と日興シティ証券の合算ベース。
口座数は日興コーディアル証券のみ。

※4 2007年6月末時点

※5 2008年6月に一部不稼動口座の閉鎖を実施

※6 収益合計(米国会計基準)

※7 単独

営業収益ランキング

単位:百万円

1	野村 ※6	515,608
2	大和	296,935
3	三菱UFJ	288,254
4	みずほ	207,193
5	日興 ※3	141,352
6	新光	63,400
7	岡三	29,301
8	SBI	26,658
9	東海東京	24,827
10	SMBCフレンド	24,582
11	みずほインベ	21,241
12	松井	15,022
13	マネックス	13,952
14	楽天	12,331
15	カブドットコム ※7	8,706
16	いちよし	8,640
17	コスモ	8,142
18	東洋	7,102

(出所:主要証券各社開示資料より当社集計)

(連結、千万円以下は切り捨て)

SBI証券の証券業界におけるポジショニング(2)

(利益・2009年3月期第2四半期累計連結業績)



営業利益ランキング

単位:百万円

1	松井	6,487
2	SBI	6,406
3	三菱UFJ	5,120
4	日興 ※1	4,285
5	マネックス	3,998
6	SMBCフレンド	3,432
7	カブドットコム ※2	3,310
8	楽天	2,611
9	東海東京	1,506
10	岡三	122
11	いちよし	▲501
12	東洋	▲591
13	新光	▲994
14	コスモ	▲3,563
15	みずほインベ	▲6,152
16	みずほ	▲17,239
17	大和	▲26,616
18	野村 ※3	▲153,605

当期利益ランキング

単位:百万円

1	SBI	8,902
2	松井	3,923
3	SMBCフレンド	2,872
4	カブドットコム ※2	2,091
5	東海東京	2,047
6	日興 ※1	1,954
7	岡三	683
8	マネックス	244
9	新光	56
10	東洋	▲372
11	いちよし	▲865
12	コスモ	▲2,523
13	楽天	▲3,966
14	みずほインベ	▲5,913
15	三菱UFJ	▲11,081
16	大和	▲14,637
17	みずほ	▲19,810
18	野村 ※3	▲149,464

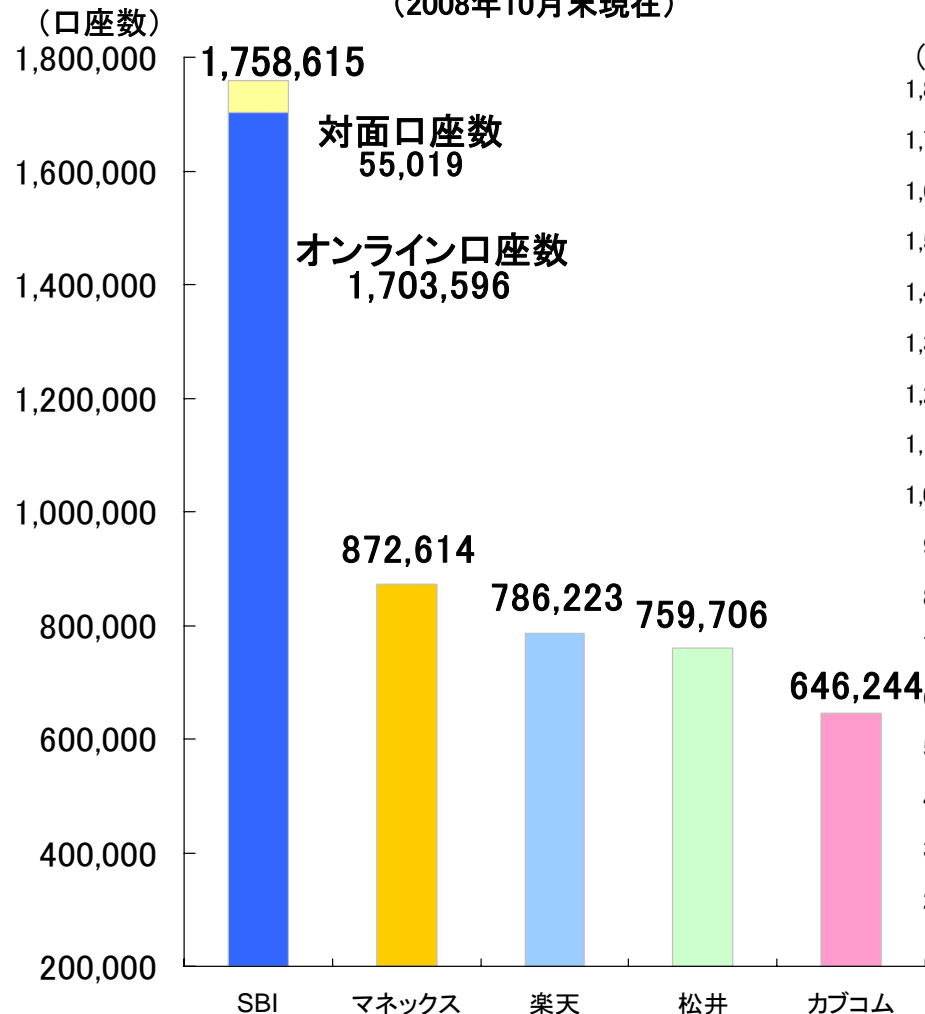
(出所:主要証券各社開示資料より当社集計)
(連結、千万円以下は切り捨て)

※1 日興は日興コーディアル証券と日興シティ証券の合算ベース ※2 単体
※3 野村は米国会計基準。営業利益、経常利益には税引き前利益を使用

主要オンライン証券の口座数比較

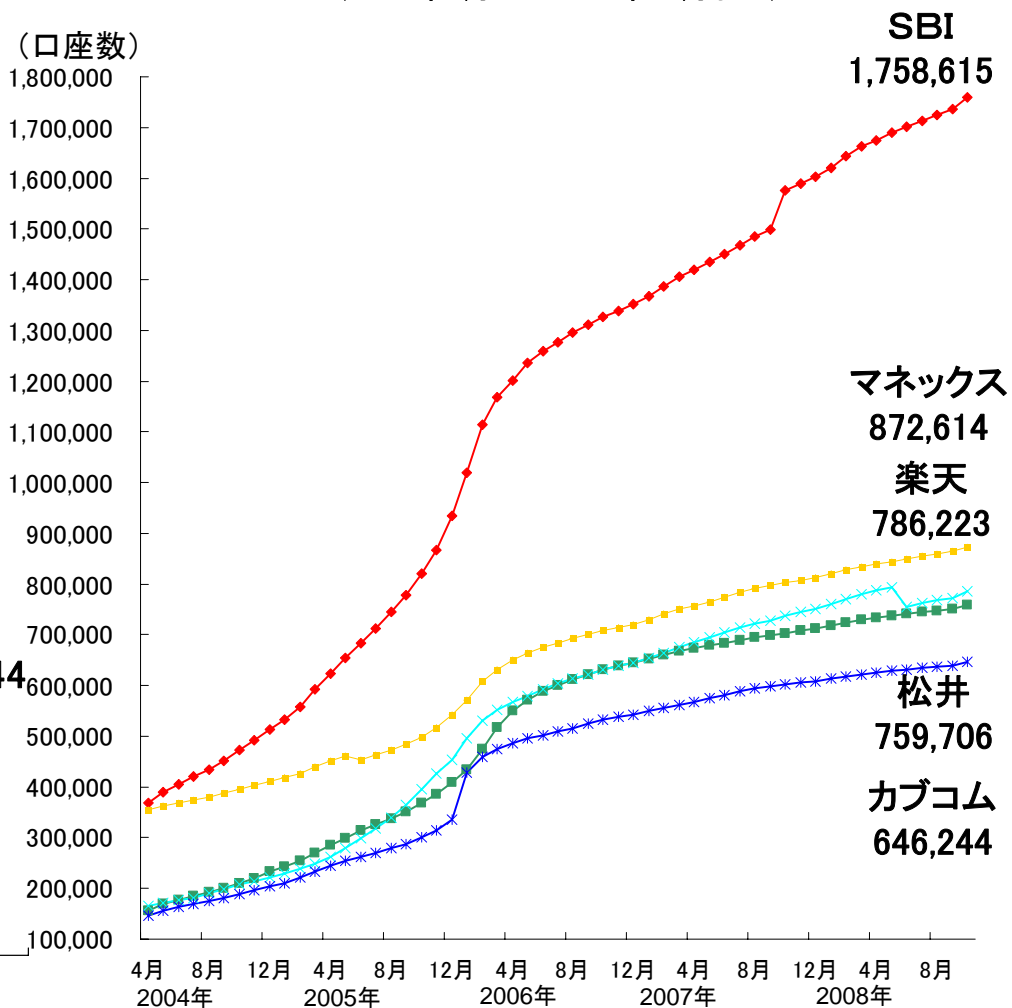
主要オンライン証券5社の口座数

(2008年10月末現在)



主要オンライン証券5社の口座数推移

(2004年4月から2008年10月まで)



出所: 各社ホームページ等公表資料より当社にて集計

※ 1. マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。 2. カブドットコム証券は2006年1月1日にMeネット証券と合併
 3. (株)SBI証券(旧SBIイー・トレード証券)は2007年10月1日にSBI証券(株)と合併
 4. 楽天証券は2008年6月に一部不稼働口座の閉鎖を実施

第2部 現在の事業環境の継続を前提とした 今後1、2年間の展開

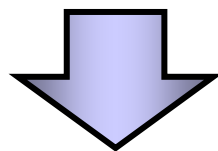
- (1) 安定的な財務運営への注力
- (2) 環境に応じた組織再編成(剪定)
- (3) 新規事業の早期黒字化や赤字幅の縮小
- (4) 利益拡大に速効性のある事業の立ち上げ

(1) 安定的な財務運営への注力

社債の償還について(SBIホールディングス)

今期に償還を迎えたSBIホールディングスの社債

	金額(億円)	償還時期
無担保普通社債(償還済)	500.0	2008年9月
2008年満期円建転換社債型 新株予約権付社債	59.4	2008年11月
合計	559.4	

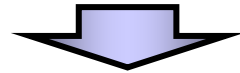


みずほコーポレート銀行、三井住友銀行、住友信託銀行、三菱東京UFJ銀行からの融資と、自己資金により調達。

社債の償還について(SBI証券)

今期中に償還を迎えるSBI証券の社債

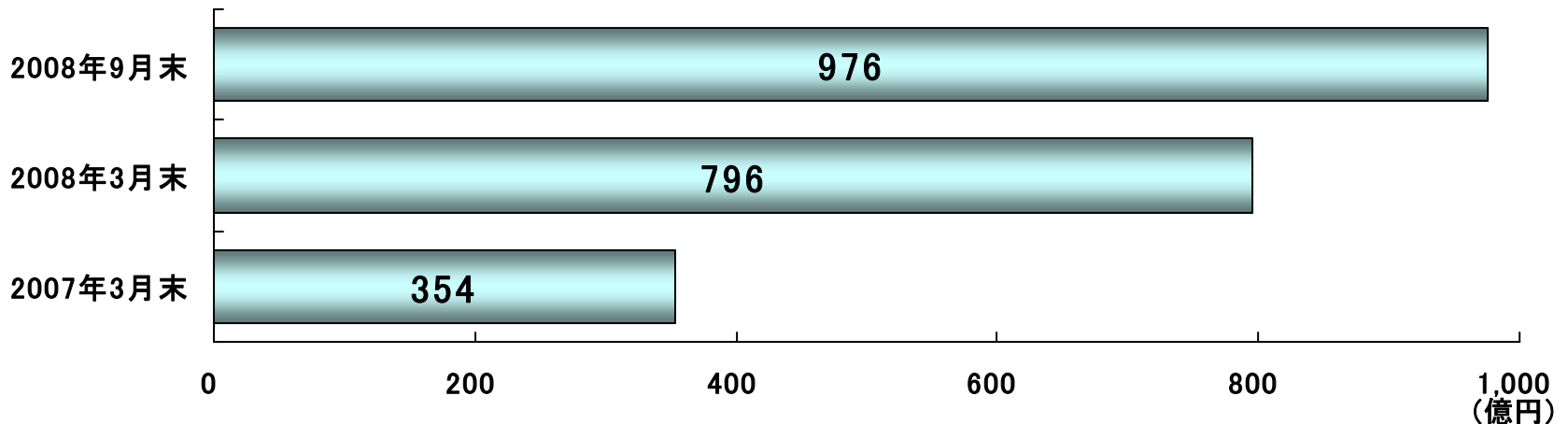
	金額(億円)	償還時期
無担保普通社債	500.0	2009年3月



SBI証券の現預金にて償還予定。

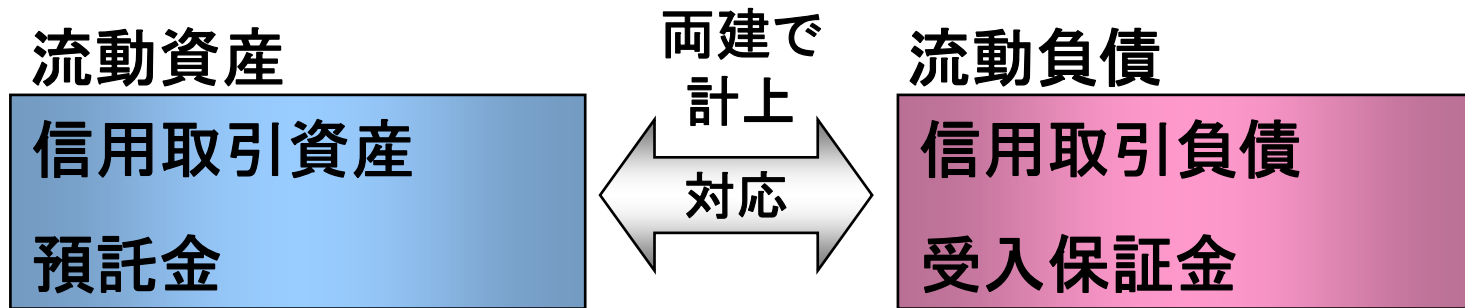
**2008年9月末で現預金残高は976億円を有しており、
償還のための起債や銀行借入の予定はない**

各期末の現預金残高推移(SBI証券単体)



連結貸借対照表の特徴(1)

当社の連結総資産は、子会社のSBI証券における預託金等の顧客資産勘定が含まれるため、実態より膨らんでいる



合計5,669億円 ←→ 合計3,870億円

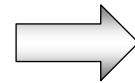
差分は主に、SBI証券の自己資金を用いた信用取引貸付であり、本来は証券金融会社等からの信用取引借入にて賄うことが可能

顧客への信用取引貸付を、全て証券金融会社からの信用取引借入にて賄う場合、流動資産(キャッシュ)が更に増加する

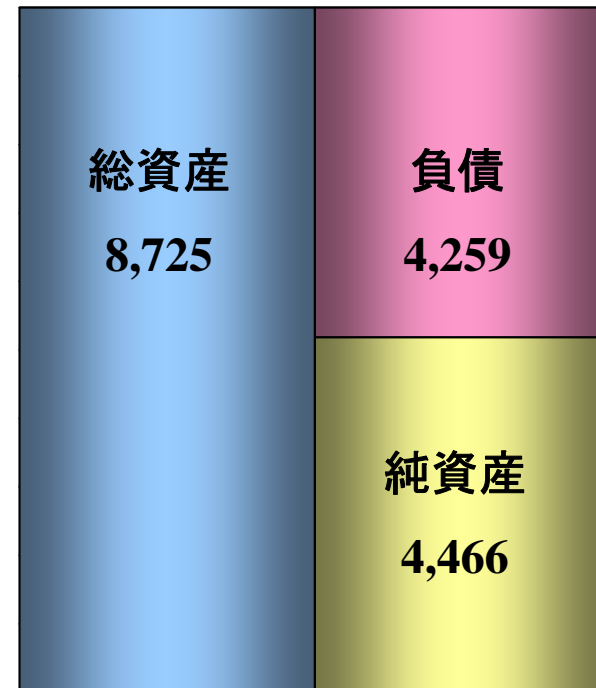
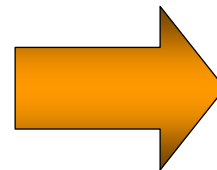
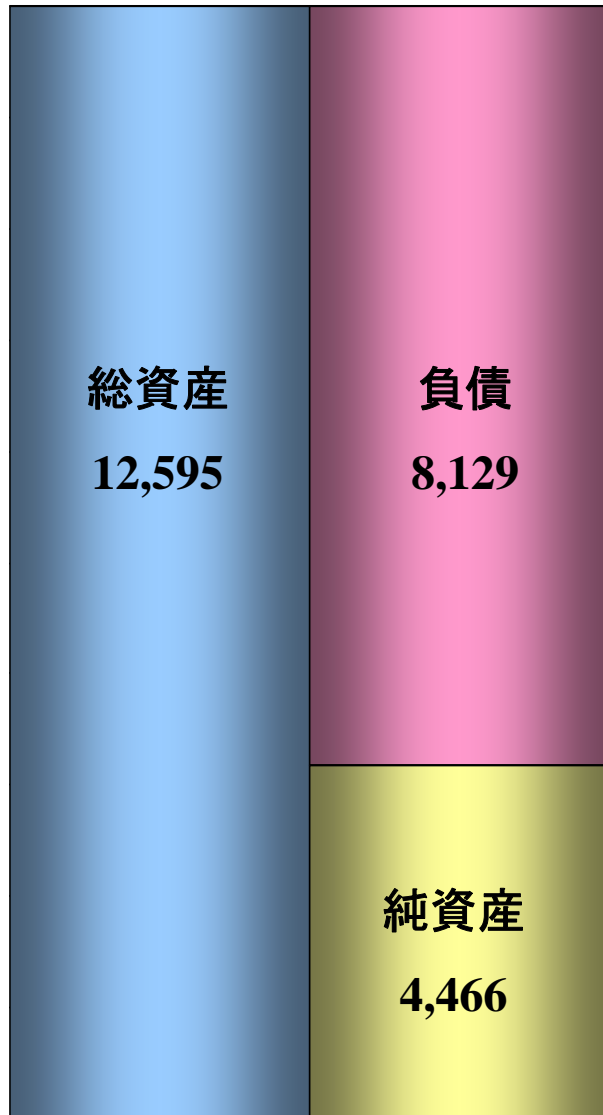
連結貸借対照表の特徴(2)

(単位:億円)

- 証券会社特有の資産・負債勘定をそれぞれ控除
- 顧客への信用取引貸付を全て証券金融会社からの信用取引借入にて賄ったとみなし、資産勘定と負債勘定の差分を流動資産として加算



負債勘定合計額相当を、流動資産、流動負債からそれぞれ控除することと一致

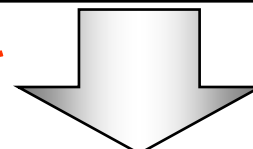


SBIホールディングスの財務安定性

SBIホールディングスの連結財務指標 (％)

		2008年3月期	2008年9月期
流動比率	※1	144.4	135.9
有利子負債比率	※2	101.0	70.1
自己資本比率	※3	19.8	30.0

証券会社特有の資産・負債勘定の影響を
考慮した実質的な数値



		2008年3月期	2008年9月期
流動比率	※1	201.3	173.3
有利子負債比率	※2	101.0	70.1
自己資本比率	※3	30.0	43.3

※1 流動資産÷流動負債で算出しており、150%以上※4が望ましいとされています。

※2 有利子負債÷自己資本(株主資本+評価換算差額)で算出しており、100%以下※5が望ましいとされています。
なお有利子負債には証券事業に係る信用取引負債等は含んでおりません。

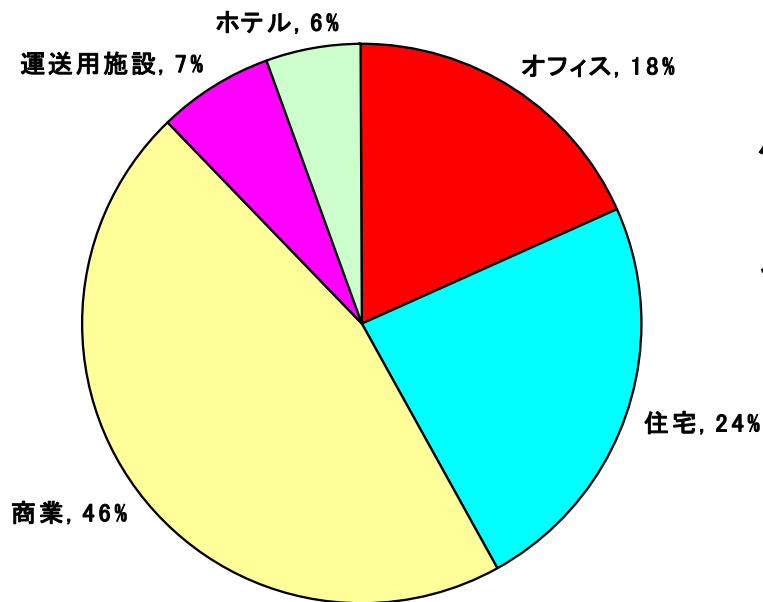
※3 自己資本(株主資本+評価換算差額)÷総資産で算出しており、30~50%※4が望ましいとされています。

※4 『会社「経理・財務」入門』(金児昭著、日本経済新聞出版社)における基準

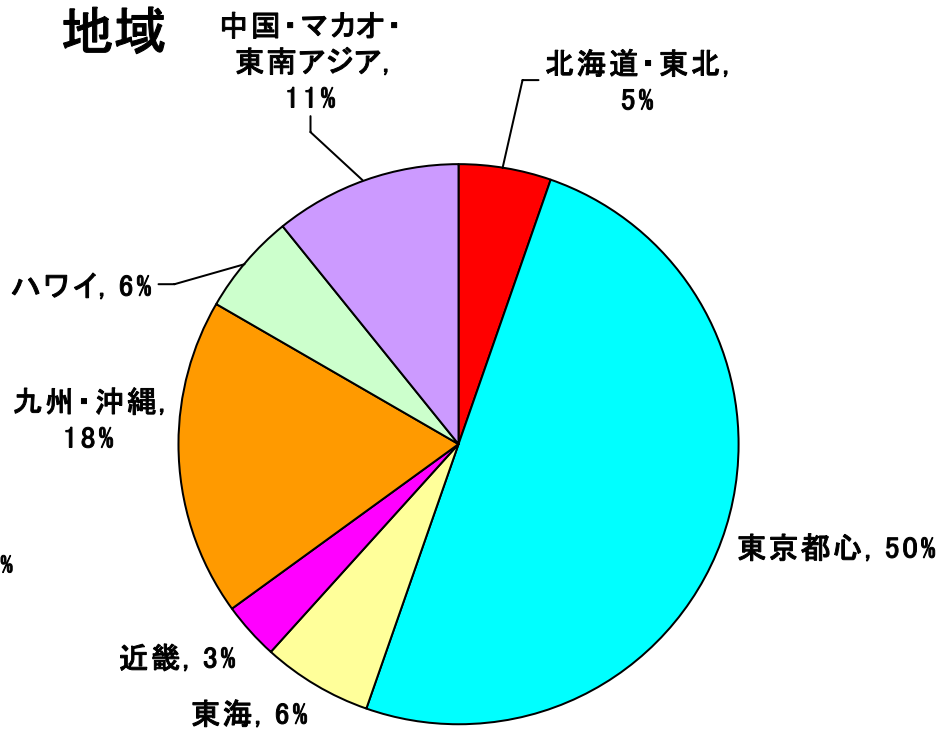
※5 『財務会計』(斎藤静樹編著、有斐閣)における基準

当社不動産事業における保有物件の状況

不動産物件の種類



地域



※2008年9月末現在

**ローンによるレバレッジをかけた開発は行わず、
自己資金での開発が中心**

(2) 環境に応じた組織再編成(剪定)

「一利を興すは一害を除くに若かず、
一事を生ずるは一事を減すに若かず」

— 耶律楚材

『十八史略』

新たな成長に向けた組織の再編成(剪定)

～年頭所感より～

『～当面の経営環境を洞察し、組織の剪定を断行します。グループ各事業、各プロジェクトの優先順位を明確にし、経営資源の傾斜的配分を行います。やはり、時に剪定したり、間引いたり、省いたりして、新しい生命力が創造される環境を整備することが必要なのです。～』

(2008年1月4日 SBIグループ年賀式において)

～SBIマネーワールド ブログより～

『～今のSBIグループは全ての会社が相互にシナジーを生むように作り上げてきましたが、そのシナジーを更に効果的に発揮するためのグループ再編成ということが今年の大きなポイントになるのです。～』

(2008年2月25日「SBIマネーワールド」より抜粋)

新たな成長にむけたSBIグループの組織再編成(1)

経営資源の再配分 ⇒ 新たな成長に向けた環境の整備

完全子会社化

- ・三大新事業と様々なシナジーが期待できるSBIイー・トレード証券
(現SBI証券)の完全子会社化(8月1日効力発生)

売却

- ・韓国三大生命保険の一つである教保生命を売却
(2007年2月 取得 2007年9月 株式譲渡 / 売却益:約33億円)
- ・E*TRADE Korea売却により得た資金は 新たな成長分野へ
(2008年4月 売却の基本合意 9月 韓国金融委員会の承認
2008年9月 株式譲渡 / 特別利益:約104億円)

新たな成長にむけたSBIグループの組織再編成(2)

経営資源の再配分(続き)

収益に速効性のある事業会社の設立

- ・ 為替証拠金取引のプラットフォーム会社
「SBIリクイディティ・マーケット」を設立
- ・ レセプトファイナンスを手掛ける SBIレセプト の設立(買収後商号変更)
- ・ バイオ関連分野における SBIアラプロモ の設立

より成長できる環境への事業移管

- ・ SBIイコールクレジット の一部は、住信SBIネット銀行の個人ローン事業と統合の方向。設立した新会社ネクス(株)で貸金業登録等の準備中

(3) 新規事業の早期黒字化や赤字幅の縮小

【住信SBIネット銀行】

～来年度黒字化が視野に～

経常損失は

第1四半期17.8億円 ⇒ 第2四半期12.8億円 へと改善

開業時の事業計画

(2007年9月24日開業)

- ・目標口座数 2010年3月期:40万口座程度、2012年3月期:60万口座程度
- ・目標預金量 2010年3月期:7,000億円程度、2012年3月期:1兆円程度
- ・目標収益 2010年3月期:単年度黒字化
2012年3月期:当期純利益50億円程度・累損解消

預金残高は開業から389日で5,000億円を突破

競争力のある金利の設定、個人顧客に対する手数料無料でのATM入出金・振込取引の提供のほか、各種キャンペーンの展開により、2007年9月24日の開業から389日で預金残高が5,000億円を突破した。

各行が預金残高5,000億円突破に要した日数

	開業日	預金残高が 1,000億円を 超えた時期 (注1)	開業からの 日数	預金残高が 5,000億円を 超えた時期 (注1)	開業からの 日数	預金残高 (注2)
イーバンク銀行	2001/7/23	2003/10/1～ 2004/3/31	801～ 983日	2007/4/20	<u>2,098日</u>	7,734億円
ジャパンネット銀行	2000/10/12	2002/10/1～ 2003/03/31	720～ 901日	—	—	4,462億円
ソニー銀行	2001/6/11	2002/3/1～ 2002/03/31	264～ 294日	2004/12/1～ 2004/12/31	<u>1,270～ 1,300日</u>	13,228億円
住信SBIネット銀行	2007/9/24	2007/11/19	57日	2008/10/16	<u>389日</u>	5,198億円

(注1) 各行公表資料より、預金残高がそれぞれの金額を超えたことが判明した時期

(注2) 住信SBIネット銀行は2008年11月27日の残高、ジャパンネット銀行は2008年9月末の残高、ソニー銀行・イーバンク銀行は2008年10月末の残高

住宅ローン実行累計額も順調に拡大

～住宅ローン取扱い開始から**411日**で、同実行累計額**1,000億円突破**～
 (2008年11月7日)

(ジャパンネット銀行、イー・バンク銀行は住宅ローン取扱なし)

	ソニー銀行	住信SBIネット銀行 (注1)
開業日	2001年6月	2007年9月
住宅ローン取扱い開始	2002年3月	同上
1000億円突破に 要した日数	1020～1110日 (注2)	411日

インターネット専門銀行としては最速での到達！

住信SBIネット銀行では、キャンペーン(注3)優遇金利として基準金利より最大年2.2%優遇するなど競争力のある金利の設定や8疾病保障が無料で付保可能になるほか、一部繰上返済手数料・金利タイプ変更手数料無料や銀行への来店不要で契約手続きが完了等々の顧客利便性を追求したサービスを展開

(注1)ソニー銀行は約定返済分を反映した実行残高、住信SBIネット銀行は実行金額ベース
 (注2)公表資料より当社にて集計、(注3)2009年3月31日申し込み受付分まで

順調に拡大する住信SBIネット銀行の顧客基盤



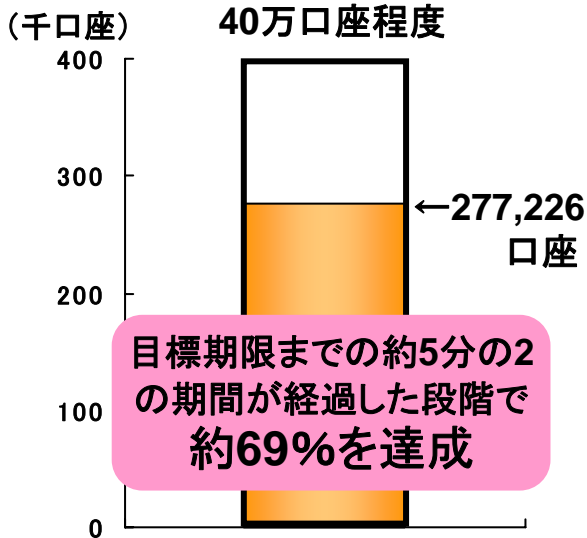
2008年10月末時点 ※()内は2008年11月27日時点の速報値

口座数:	277,226口座	(306,178口座)
預金量:	5,072億円	(5,198億円)
貸出金残高:	1,017億円	(1,115億円)
	(住宅ローン+ネットローン)	

<2008年10月末での達成率>

口座数

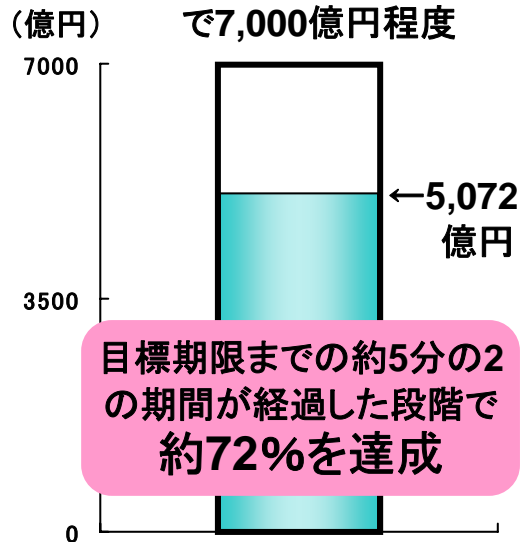
目標:2010年3月末で
40万口座程度



開業13ヶ月間

預金量

目標:2010年3月末
で7,000億円程度



開業13ヶ月間

2008年11月27日時点での達成率

口座数:306,178口座

約77%を達成

預金量:5,198億円

約74%を達成

好調に推移した住信SBIネット銀行の第2四半期



ネット銀行5社の第2四半期(7月-9月)比較

	2008年3月期第2四半期中(7-9月)の増減数			2008年9月末
	口座増加数 (口座)	貸出金 増加額 (百万円)	預金増加額 (百万円)	顧客あたり 預金残高 (千円)(※2)
住信SBIネット銀行	82,139	49,728	146,560	1,944
ソニー銀行	30,045	27,407	96,856	1,994
イーバンク銀行	90,000 (※1)	2,000	▲25,041	268
ジャパネット銀行	38,000	481	11,880	234
じぶん銀行	179,000	—	14,707	82

※1 累計口座開設承認数(解約件数を除く)の増加数

※2 預金残高÷口座数

金融情報誌の「今、一番使える銀行ランキング」で 住信SBIネット銀行が総合1位を獲得



(『ダイヤモンド・マネー』 / ネット取引が可能な主要20行が対象。)

品揃えは順次拡充中

順位	銀行名	手数料 (30点満点)	使いやすさ (30点満点)	金利 (20点満点)	品揃え (20点満点)	合計
1	住信SBIネット銀行	26	24	20	9	79
2	ソニー銀行	16	23	19	14	72
3	新生銀行	22	25	8	12	67
4	スルガ銀行	13	23	19	10	65
5	イーバンク銀行	20	22	13	9	64
6	みずほ銀行	14	25	9	12	60
7	東京スター銀行	16	24	10	9	59
8	ジャパンネット銀行	12	24	19	3	58
9	三菱東京UFJ銀行	13	25	7	13	58
10	三井住友銀行	10	24	7	13	54

「インターネットバンキングに関する調査」で 最も満足度が高いネットバンクは「住信SBIネット銀行」に

～メインで利用している銀行の満足度については、満足している人の割合は「住信SBIネット銀行」が最も多く96.6%～



(インターワイヤード(株)が運営するネットリサーチサービス「DIMSDRIVE」上で10代から60代の登録モニターを対象に調査を実施、2008年9月25日に発表したものを当社にて抜粋。)

急速に増加する預金運用のための5つの柱

グループシナジーを追求することで多様な顧客ニーズへのトータルソリューションの提供と同時に運用の安定化・多様化を図る

◆住宅ローン

- ・申し込みベースで前期10,000件超を突破するなど順調に推移(前々期は4,691件)

◆個人向け無担保ローン

- ・限度額500万円で、最優遇貸出金利は5.5%
- ⇒個人ローン事業においても競争力の高い金利水準を実現
- ・SBIイコール・クレジットの債権を一部移管予定

◆オートローン

- ・保証会社がほぼ決まり商品性が確定、準備中

◆不動産担保ローン

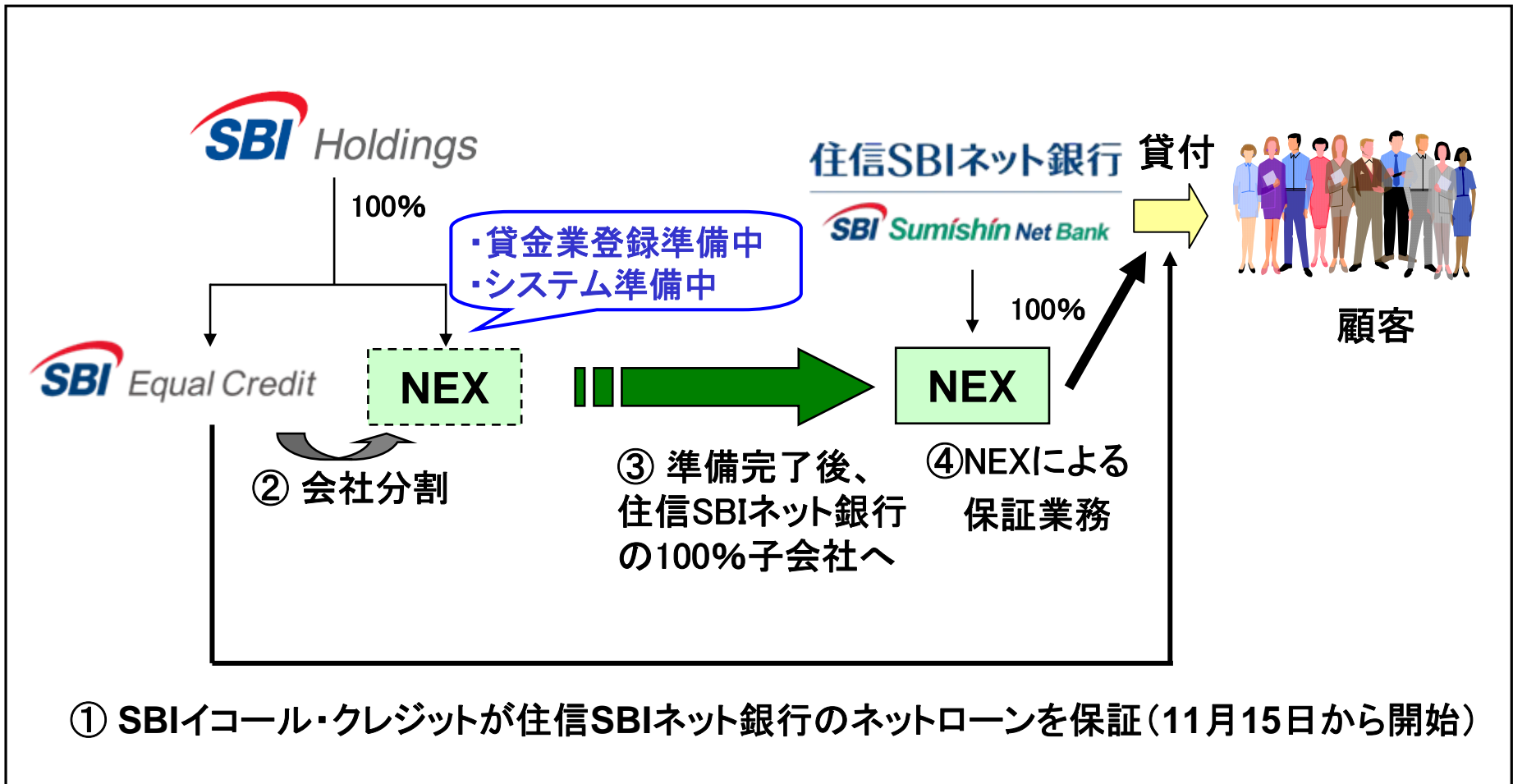
- ・ファーストクレジット株式会社の保証(個人向け)、株式会社セムコーポレーションの保証(事業会社向け)にて取扱開始中

◆診療報酬債権ファクタリング(レセプトファイナンス)

- ・SBIレセプト社から診療等報酬債権を譲受けるスキームを開始済み

個人ローン「ネットローン」事業の拡大策を準備中

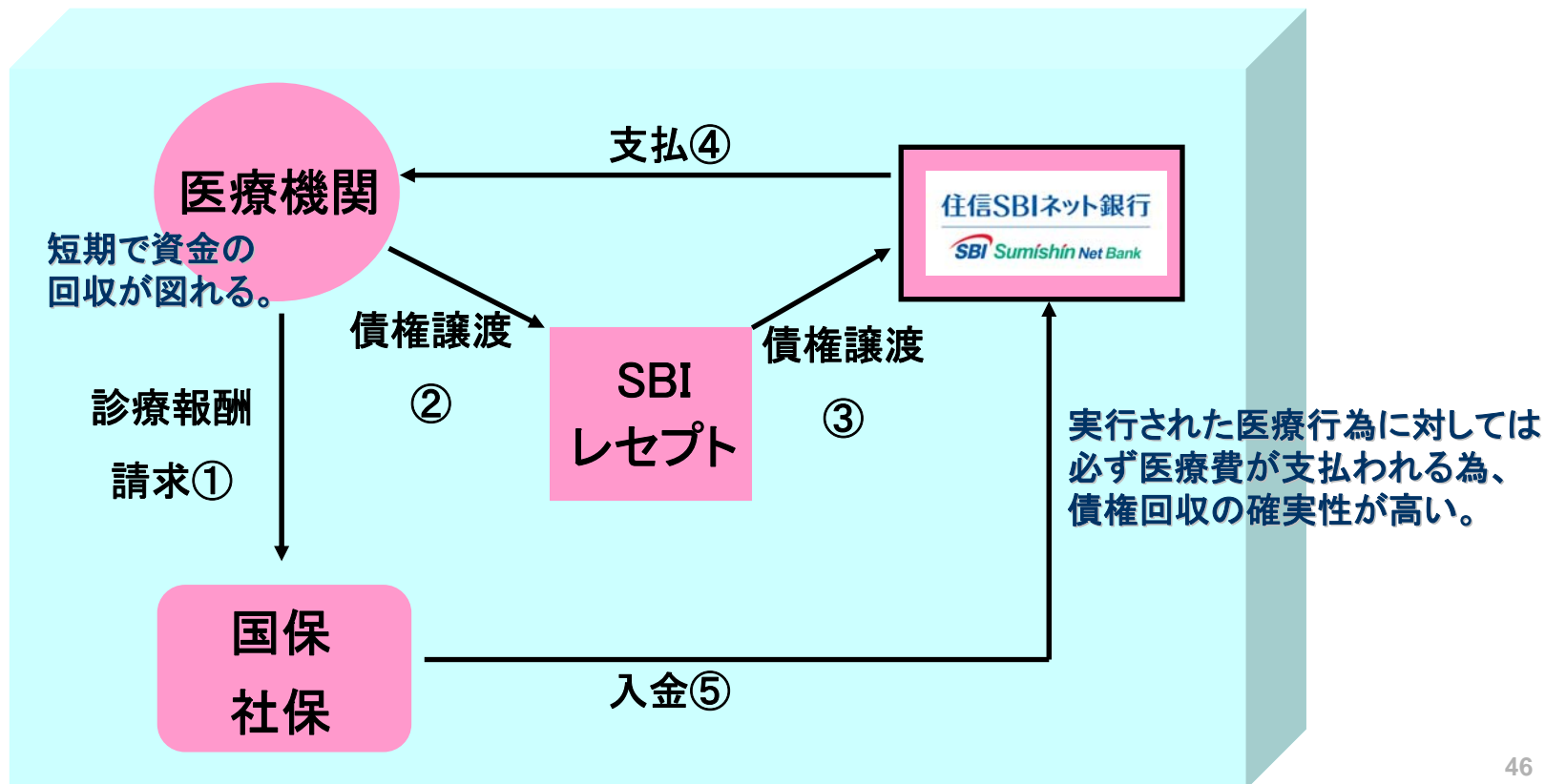
SBIイコール・クレジットの個人ローンノウハウを活用した保証スキームの構築



SBIレセプトと連携した新たな運用手段としての 診療報酬債権ファクタリング（レセプトファイナンス）

～11月に第1号案件実行～

医療機関が社会保険診療報酬支払基金（社保）及び国民健康保険団体連合会（国保）に請求する診療報酬債権のうち、SBIレセプトは将来債権部分を、住信SBIネット銀行は確定債権部分を買取り、医療機関の入金サイトを短縮させるスキーム。住信SBIネット銀行としても国保、社保から確実に資金を回収できるため低リスク。



【SBI損害保険】

開業時の事業計画

(2008年1月16日開業)

- ・目標契約件数 5期目：約30万件
- ・目標収益 5期目：単年度黒字化、10期目：収入保険料250～300億円

「SBI損保」と業界他社との保険料比較

保険料例1 (ミニバン)

夫婦で休日の外出や日常の買い物に車を使用する場合 (車両保険あり)

SBI損保	ダイレクト系A社	ダイレクト系B社	代理店系D社
年間 41,510円	年間 43,950円	年間 51,200円	年間 69,460円

保険始期日：平成20年12月1日 車名：セレナ
 型式：NC25 料率クラス：車両4 対人5 対物4 傷害4
 居住地：神奈川県 性別：男性 走行距離：年間5,000km
 初度登録：平成19年10月 運転者範囲：本人・配偶者
 ノンフリート等級：15等級 免許証の色：ゴールド
 使用目的：日常・レジャー 年齢条件：30歳以上補償
 対人：無制限 対物：無制限 人傷：5,000万
 搭傷：1,000万 車両：一般190万(免責0-10万)
 割増引：新車割引・インターネット割引・証券不発行割引

保険料例2 (軽自動車)

本人だけマイカー通勤で毎日車を使用する場合 (車両保険なし)

SBI損保	ダイレクト系A社	ダイレクト系C社	代理店系D社
年間 14,770円	年間 16,050円	年間 18,360円	年間 26,760円

保険始期日：平成20年12月1日 車名：ワゴンR
 型式：MH21S 居住地：宮城県 性別：男性
 走行距離：年間5,000km 初度登録：平成18年10月
 運転者範囲：本人 ノンフリート等級：12等級
 免許証の色：ゴールド 使用目的：通勤・通学
 年齢条件：30歳以上補償 対人：無制限 対物：無制限
 人傷：5,000万 搭傷：500万 車両：なし
 割増引：エアバッグ割引・安全ボディ割引・ABS割引・
 インターネット割引・証券不発行割引

保険料例3 (セダン)

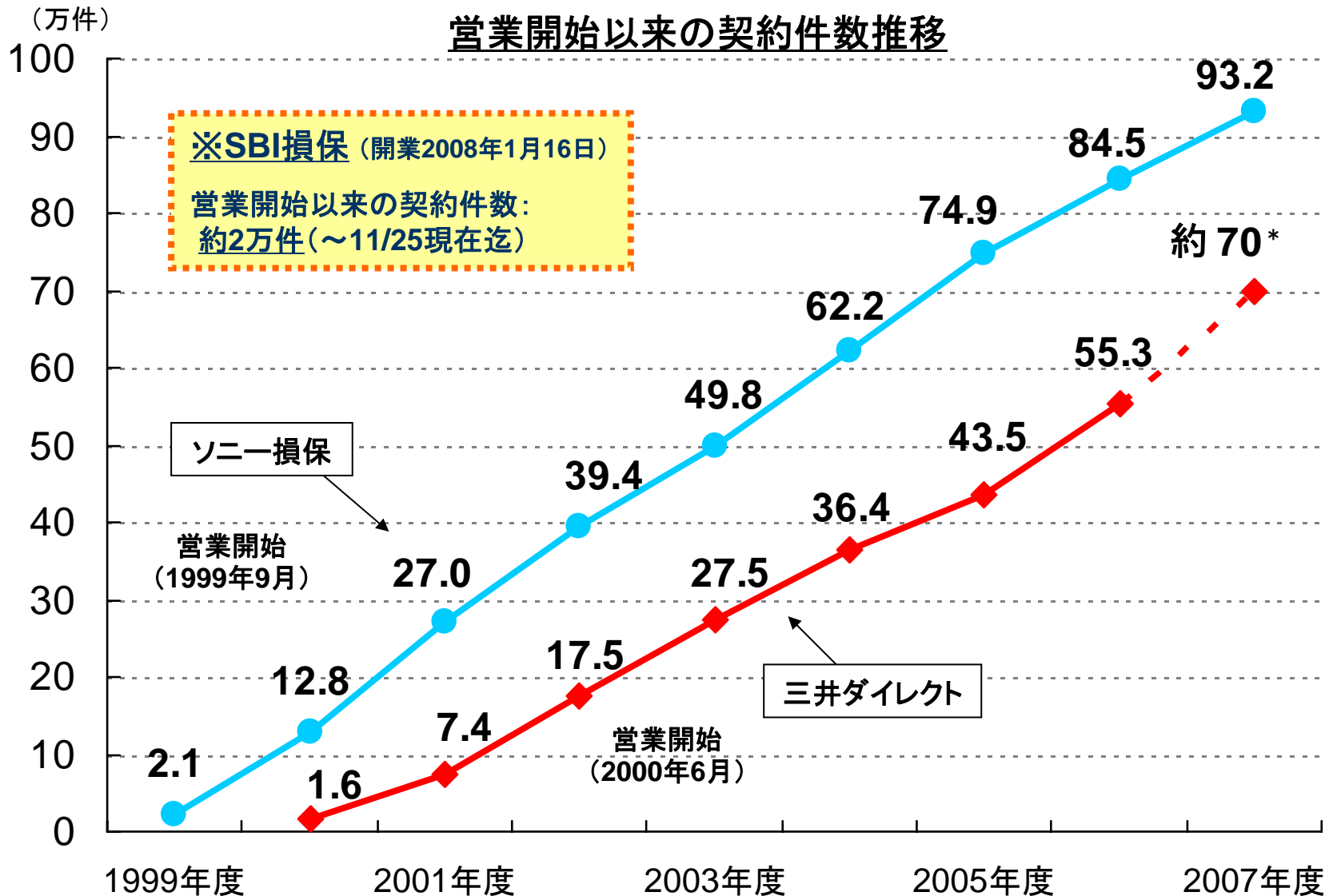
家族以外の方も車を運転される場合 (車両保険あり)

SBI損保	ダイレクト系A社	ダイレクト系B社	代理店系D社
年間 53,440円	年間 54,500円	年間 67,590円	年間 85,470円

保険始期日：平成20年12月1日 車名：マークX
 型式：GRX121 料率クラス：車両5 対人5 対物5 傷害4
 居住地：東京都 性別：男性 走行距離：年間2,000km
 初度登録：平成19年10月 運転者範囲：限定なし
 ノンフリート等級：17等級 免許証の色：ゴールド
 使用目的：日常・レジャー 年齢条件：26歳以上補償
 対人：無制限 対物：無制限 人傷：5,000万 搭傷：500万
 車両：一般290万(免責0-10万) 割増引：新車割引・
 盗難防止装置割引・インターネット割引・証券不発行割引

※SBI損保と比較の対象としているダイレクト系A社、B社、C社及び代理店系D社との契約条件、補償内容等は同一もしくは近似の内容であり、必ずしも一致しない場合があります。
 ※記載の保険料は2008年10月24日のものであり、保険料率の改定等により変更となる場合があります。また、契約の条件等によって、保険料は異なります。

主要ダイレクト損保の創業時の件数比較



* 三井ダイレクト外社の2007年度契約件数は当社推計値

主要ダイレクト損保との創業時の業績比較

■ ソニー損保（開業1999年9月）

(単位:百万円)	1999年度	2000年度	2001年度
保険引受収益	1,308	7,529	16,372
保険引受費用	1,709	7,019	12,910
営業費及び一般管理費	5,502	9,297	9,486
保険引受利益	▲5,902	▲8,786	▲6,025

■ 三井ダイレクト（開業2000年6月）

(単位:百万円)	2000年度	2001年度	2002年度
保険引受収益	876	3,756	8,300
保険引受費用	997	3,413	6,834
営業費及び一般管理費	3,497	4,352	5,349
保険引受利益	▲3,618	▲4,008	▲3,883

■ SBI損保（開業2008年1月）(*)

(単位:百万円)	2007年度	2008年度(計画)	2009年度(計画)
保険引受収益	1	1,524	4,886
保険引受費用	15	1,611	4,370
営業費及び一般管理費	202	1,189	2,017
保険引受利益	▲216	▲1,276	▲1,501

(*)2007年度は開業後3ヶ月間の数字です。2008年度と2009年度の計画はあくまでSBI損保が独自で試算した業績目標数値です。また、当該計画には再保険による拠出分を考慮しておりませんので今後開示される実際の業績数値と大きく乖離する可能性があります。保険引受利益は、あくまで保険の引受に関する収支状況を示したもので、損益計算書における経常利益等は保険業法第113条に基づく事業費の繰延べによりこれとは異なる数値になります。

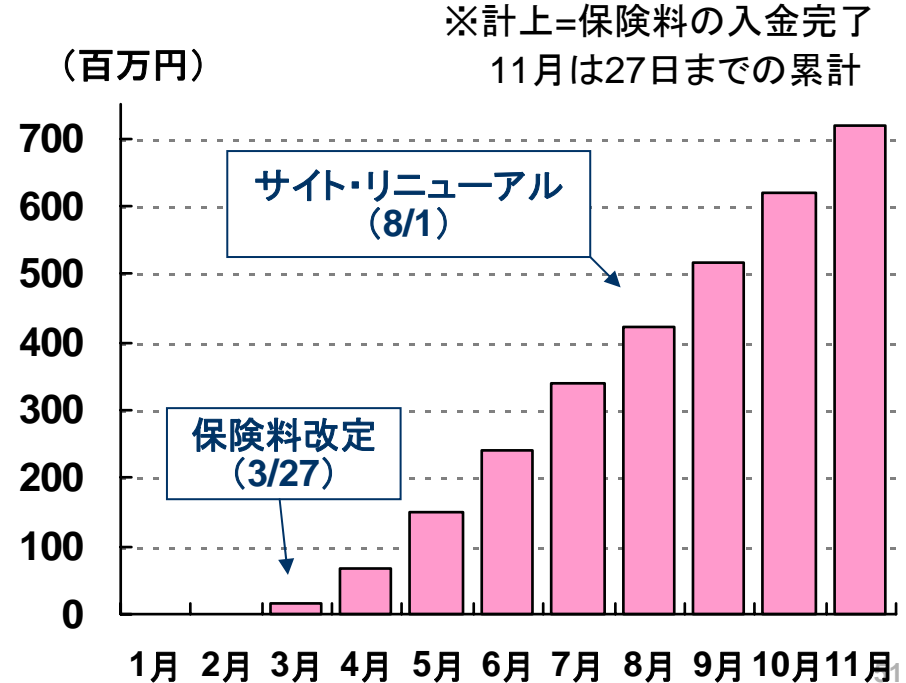
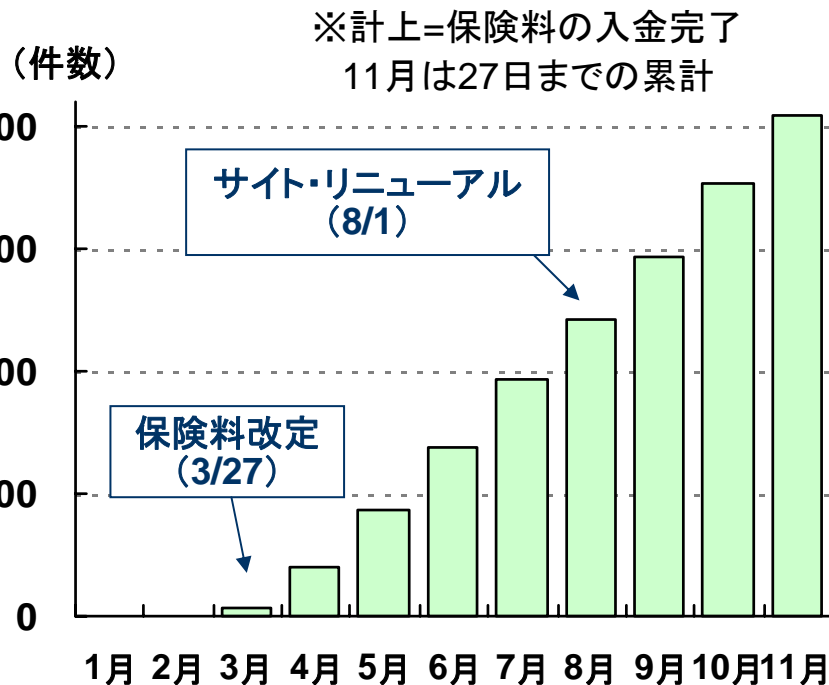
本格稼動しつつあるSBI損保

現在の状況

- ・3月27日、[保険料引き下げ](#)。大幅な値下げにより、以降成約件数は順調に増加。
- ・5月、[新車見積もりサイト「オートックワン」と提携](#)、新たな販売チャネルを開拓。
- ・8月1日、[ウェブサイトリニューアル](#)。デザインを刷新し新コンテンツを追加。
- ・10月10日より、携帯電話のGPS機能を利用した位置情報通知サービス、[「SBI損保GPSナビ」を開始](#)。

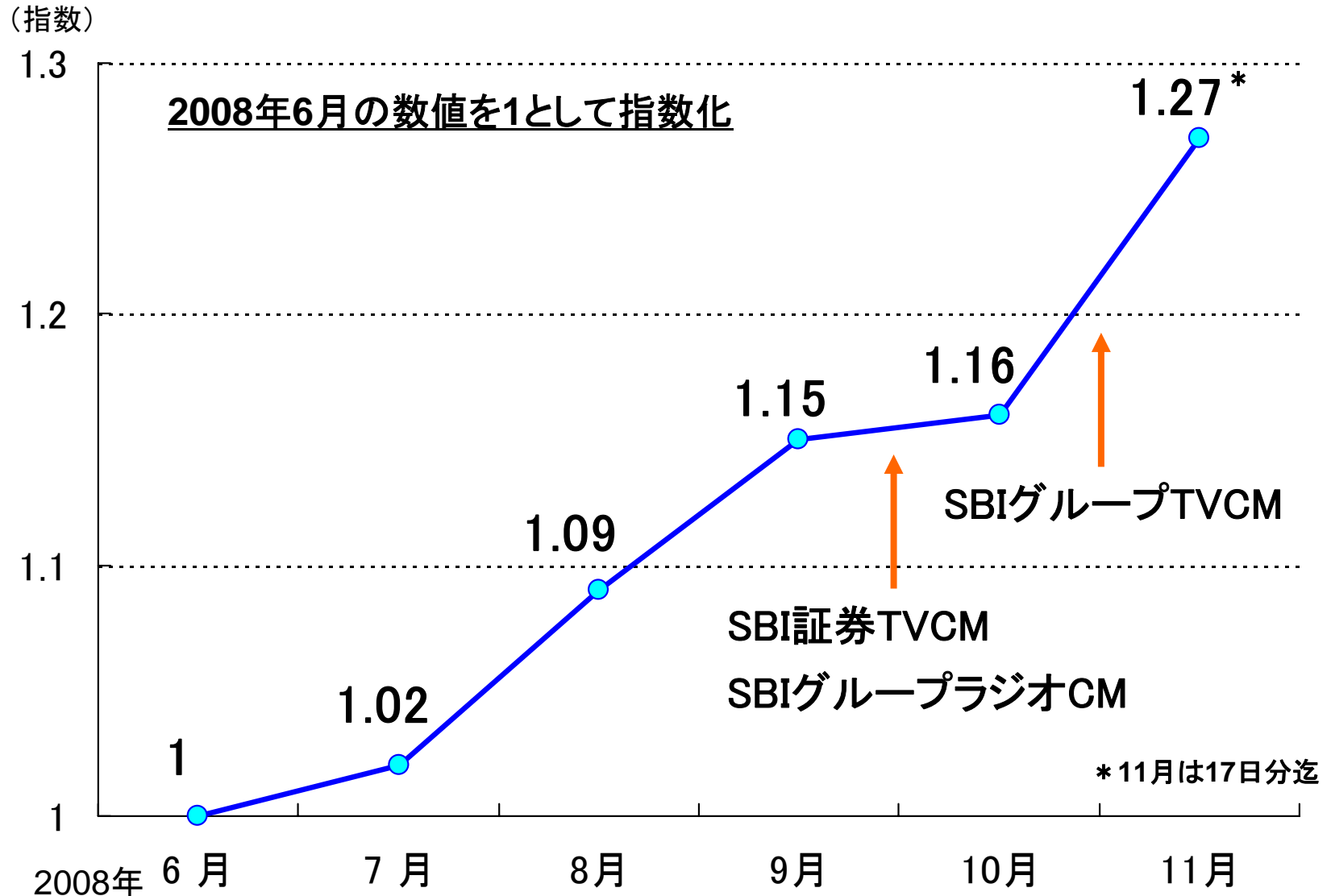
自動車保険 契約数(計上ベース)・累計

元受収入保険料(計上ベース)・累計



SBI損保 コンバージョンレートの推移

(コンバージョンレート=成約件数÷見積り件数)

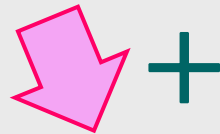


SBI損保「収入保険料倍増計画」始動

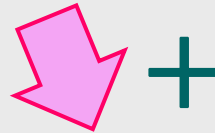
年内に全ての一括見積もり・比較サイトに掲載(参加)する



見積もり 約20,000件/月



見積もり 約15,000件/月



見積もり 約18,000件/月



見積もり 約3,500件/月

「保険スクエアbang!」
★12月スタート予定

「NTTif」
★12月スタート予定

「価格.com」
★12月スタート予定

※スタート予定の各サイトにおける見積もり件数の数字は、当社推定見込み値

さらに収入保険料3倍増を目指して

「SBIオートサポート」によるリアルへの取り組み本格化

～ SBIオートサポートは10/14より営業開始、既に579社の中古車販売業社が登録、
今後は月間100社程度の登録を見込む ～

・営業開始当初: **SBI損保の自動車保険**の契約獲得を目指す



30%

- ・オークション会場運営ノウハウ(国内3ヶ所運営)
- ・会員企業: 14,000社以上
- ・年間総出品台数: 約74万台



SBIオートサポート

中古車販売業者を通じた購入者
への金融サービス提供を支援

70%



- 【自動車関連金融商品】
- ・**自動車保険**(SBI損保)
 - ・**オートローン**(準備中)
(住信SBIネット銀行)

・今後: **SBIグループの総合力を発揮する**ことで、飛躍的な登録社数の増加を目指す！！

自動車保険

オートローン

SBI損保

住信SBIネット銀行

SBI Sumishin Net Bank

【SBIアクサ生命保険】

開業時の事業計画 (2008年4月7日開業)

- ・目標契約件数 初年度：約2万件、5期目：約20万件
- ・目標収益 5期目：単年度黒字化

日本初のネット専業生保「SBIアクサ生命」①



チャネルの拡大

- 2008年6月、従来のダイレクト販売に加えて募集代理店での商品販売を開始
10月末現在・取り扱い募集代理店：合計27社
- 2008年10月、募集代理店での店頭窓口における試験販売を開始
(株)アドバンスクリエイトが運営する『保険市場』の全国62店舗と、(株)アトラクティブが運営する『保険コンサルテーション:アカルミック』八尾西武店の、全63店舗。

ユーザビリティ向上への取り組み

- 10月より、カスタマーセンターの営業時間を平日は22時まで拡大、土日祝日の営業も開始(従来は平日午前9時から午後6時までのみ)
- 顧客が商品内容把握や資料請求、見積もりをしやすくウェブ画面を改善
パソコン操作初心者なども含めた幅広い層への拡販を目指し、トップ画面における商品説明のスペースを従来の2倍以上に広げ、資料請求や見積もりへのリンクを明示。
- 10/28より、モバイルサイトを開設
モバイルで商品の紹介や、年齢・性別に応じた保険料試算、資料請求等が可能に
- 11/14より、保険業界初(※)、Webサイト上で口座振替の手続きが簡潔する「web口座振替受付サービス」開始。従来の書面記入や捺印、送付手続きが不要に。(※)当社調べ

日本初のネット専業生保「SBIアクサ生命」②



保険料の引き下げについて

- 10/2より、従来より業界最低水準の保険料で提供してきた「カチッと定期」(定期保険)において、**高額割引制度を導入**。

⇒従来と比較して**最大46.6%の割引** (※保険金額2千万円以上の契約が対象)

【代表的な定期保険との比較(3,000万円10年定期の死亡保険の場合(単位:円))】

保険会社			SBIアクサ生命(※) 「カチッと定期」	ネット生保 A社	既存生保 B社	既存生保 C社	高額割引後 SBIアクサ生命 「カチッと定期」
保険料 (月払)	男性	30歳	4,590	3,484	4,650	4,920	3,450
		40歳	8,070	7,240	8,190	8,370	7,020
		50歳	16,860	17,194	17,400	17,280	16,230
	女性	30歳	3,570	2,344	3,660	3,870	2,400
		40歳	5,610	4,528	5,700	5,850	4,560
		50歳	9,630	9,034	9,840	9,870	8,970

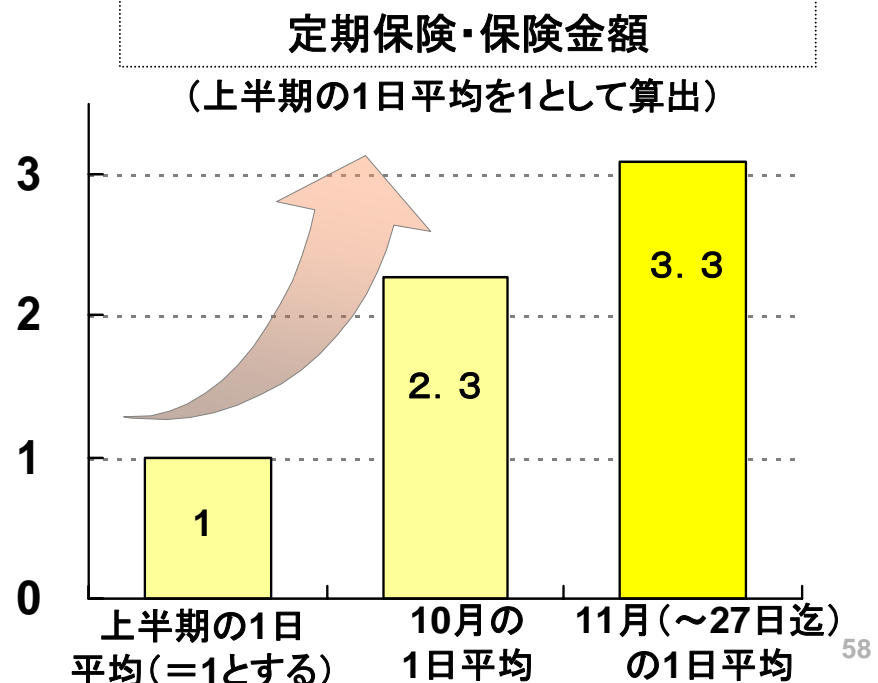
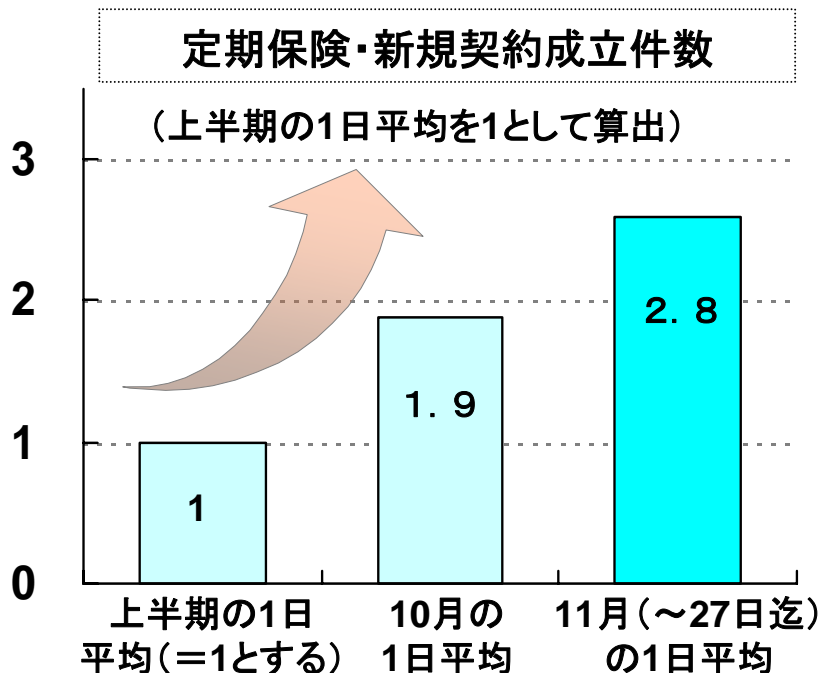
(※) 高額割引前

(左側の表は、2008年5月21日「日経トレンドネット」掲載記事を参照した。SBIホールディングス作成)

日本初のネット専業生保「SBIアクサ生命」③

契約件数について

- 2008年4月～9月の新規契約件数は、合計1,256件。
内訳:定期保険:607件、医療保険(がん特約付加率70%以上):649件
- 10月に高額割引制度(定期保険)を導入以降、契約件数は大きく増加。
- 11月はWeb口座振替受付サービスを開始し、10月度をさらに上回るペースで進捗。
=>11月は1日あたりの契約成立件数は過去平均の2.8倍の増加、
保険金額は同3倍超の増加に。



『 SBIグループCMの実施 』

テレビCM

10月1日～31日：「SBIイー・トレード証券」から「SBI証券」への商号変更告知

11月4日～：「SBIって何？」 SBIグループ各社の社名・サービスを紹介

ラジオCM

10月1日～： SBIグループ各社の社名・サービスを紹介

「SBI」ブランドの浸透へーテレビCMの本格展開



SBIグループの多様なサービスラインナップとグループの総合力をご紹介

「SBIって何？」篇：30秒 (11月4日より開始)



SBI証券
(証券)



住信SBIネット銀行
(銀行)



SBIアクサ生命
(生命保険)



SBI損保
(損害保険)



SBI住宅ローン／住信SBIネット銀行
(SBIモーゲージ)
(住宅ローン)



準備中の新テレビCM案

Coming Soon !

～ラジオとも連動した展開を予定～

「方程式」篇



……(途中省略)……

女性: パソコン + ケータイ × 便利 + SBI =

男性: ネット銀行!

女性: 安心 × 安心 - ムダ + SBI =

男性: ネット保険!

……(途中省略)……

(S)すべてに (B)便利が (I)いっぱい

SBI ♪

「シナジー効果」篇



……(途中省略)……

SBIグループは・・・それはあたかも、
ひとつひとつの楽器が最高のパフォーマンスを
演じる、オーケストラに似ています。

……(途中省略)……

すべては消費者のために、投資家のために、
そして、すべての人々のために。

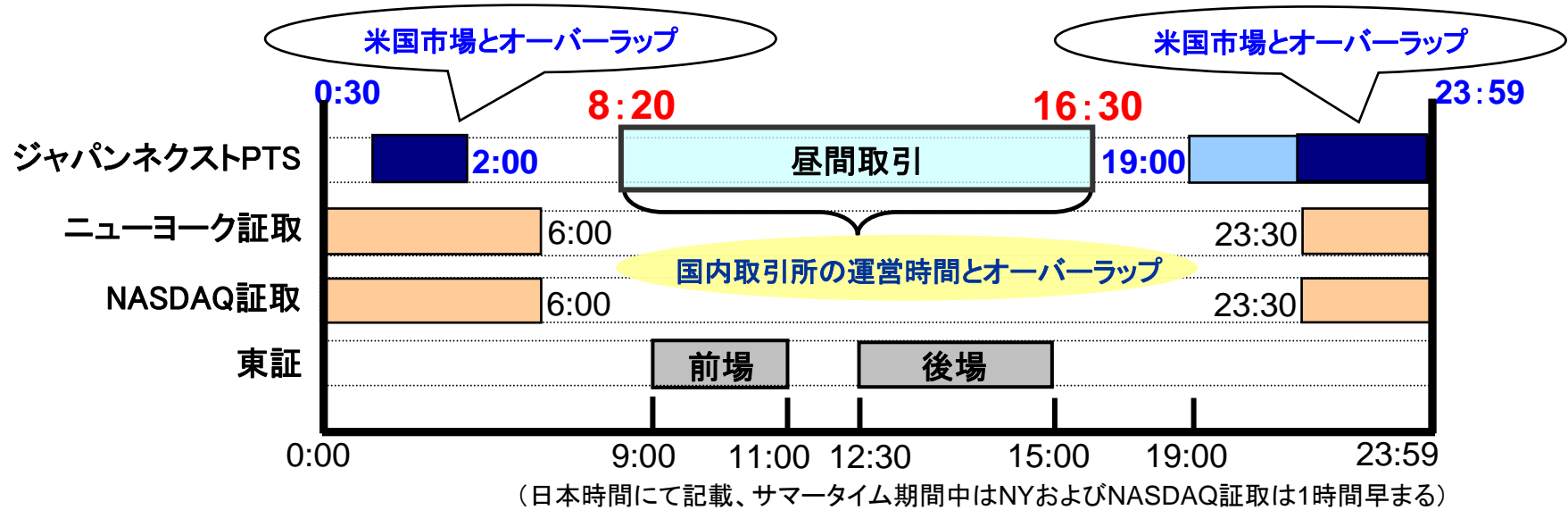
私たちは、SBIグループです。

【SBIジャパンネクスト証券】

～昼間取引開始により大幅な収益改善を見込む～

昼間取引を開始(午前8:20～午後4:30)

～10月28日よりテスト的な取引を開始、12月中には本格的な取引体制に移行～



昼間取引・接続証券会社

- ゴールドマン・サックス証券
- メリルリンチ日本証券
- クレディ・スイス証券
- UBS証券 など主要外資系証券5社

SBI証券は12月半ばから参加の予定

他の主要外資系証券数社も参加予定

※それぞれ自社のシステムの状況や運用体制についての最終確認をしながら順次取引を開始

日本最大規模の私設取引市場に

今後昼間取引が本格化することで、更なる取引量の増加が期待される

PTS各社の月間売買代金比較(08年)

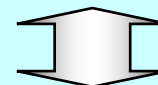
(単位:百万円)

運営会社	取引開始時期	10月	11月27日まで		
			昼間	夜間	合計
SBI ジャパンネクス ト	07年 8月	38,503	31,953	22,409	54,362
カブドット コム	06年 9月	36,572	11,719	460	12,179
マネックス	01年 1月	4,250	—	2,883	2,883
大和	08年 8月	1,706	—	956	956
松井	08年 5月	181	17	—	17

月次での過去最高
記録を更新!

(10月中はほぼ夜間
取引のみ)

全ての参加者が本格的に取引を
開始している状態ではないものの、
11/25昼間取引売買代金:
84億円(他社含め、PTS昼
間取引上過去最高の記録)



47億円(カブコムにおける昼
間取引最高記録)

(※)10月売買代金は2008年11月18日付日刊工業新聞記事より抜粋

11月売買代金は各社HP、日本証券業協会HP、日経QUICKより当社にて集計

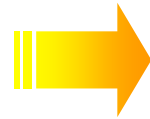
なお上記は当社独自に集計したものであり、各社の今後の公表数値とは異なる場合があります

(※)シングルカウントとなっており、売りと買いの合計ではありません

顧客利便性の向上へ向けて

◆呼値の刻み:

昼間取引における「呼値の刻み」は、**東証の10分の1以下**
 (夜間は東証と対応)



**取引所の最良気配よりも有利な値段で取引
 できる機会の提供**

値段の水準		呼値の刻み		
		ジャパンネクストPTS(昼間)	kabu.comPTS	東証
1円以上	2,000円以下	0.1円	1円	1円
2,000円超	3,000円以下	0.5円	1円	5円
3,000円超	30,000円以下	1円	1円	10円
30,000円超	50,000円以下	5円	10円	50円
50,000円超	300,000円以下	10円	10円	100円
300,000円超	3,000,000円以下	100円	100円	1,000円
3,000,000円超	20,000,000円以下	100円	1,000円	10,000円
20,000,000円超	30,000,000円以下	100円	1,000円	50,000円
30,000,000円超		100円	10,000円	100,000円

◆**特定の執行条件を付した多様な注文形態にも対応**
 (夜間は指値注文のみ)

(4) 利益拡大に速効性のある事業の立ち上げ

【 SBIリクイディティ・マーケット】

(2008年11月17日営業開始)

～利益拡大に速効性のある事業の立ち上げ～

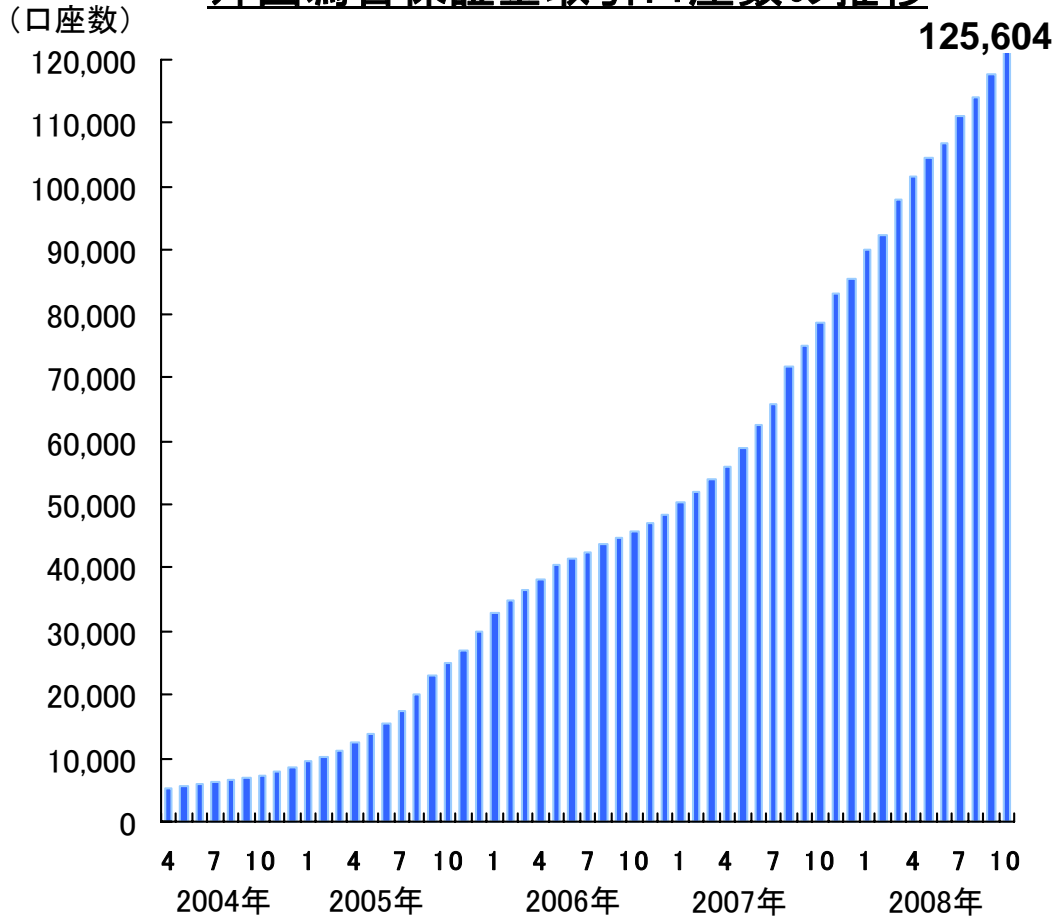
(2009年3月期)

SBI証券への目標利益寄与額 : 営業利益で約8億円

SBIリクイディティ・マーケットの目標利益額 : 営業利益で約4億円

SBI証券のFX取引口座数は堅調に増加し 大手オンライン証券4社※で最多

SBI証券における 外国為替保証金取引口座数の推移



オンライン証券各社の 外国為替保証金取引口座数

(2008年10月末現在)

SBI	125,604
マネックス	80,774
松井	53,104
カブコム	22,100

【参考】

マネーパートナーズ	70,603
-----------	--------

2007年12月期(通期)

営業収益71.4億 営業利益46.7億 純利益28.5億

2008年9月期(2Q)

営業収益40.1億 営業利益14.7億 純利益9.5億

※データが開示されたSBI証券、マネックス証券、松井証券、カブドットコム証券の4社

SBI証券のFX取引の売買代金は、手数料の無料化および スプレッドの大幅縮小(2008年7月～)により急拡大

ネット証券大手4社※の外国為替保証金取引売買代金の推移

(単位:億円)

30,000

25,000

20,000

15,000

10,000

5,000

0

4

5

6

7

8

9

10

11

12

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

2007年

2008年

金額は2008年10月の売買代金
()内は前年同月(2007年10月)比増減

2008年10月の月間売買代金は、
2008年6月(手数料等改定前)の
約5.8倍に急増

SBI
2兆5,311億円
(299%増)

松井
1兆811億円
(178%増)

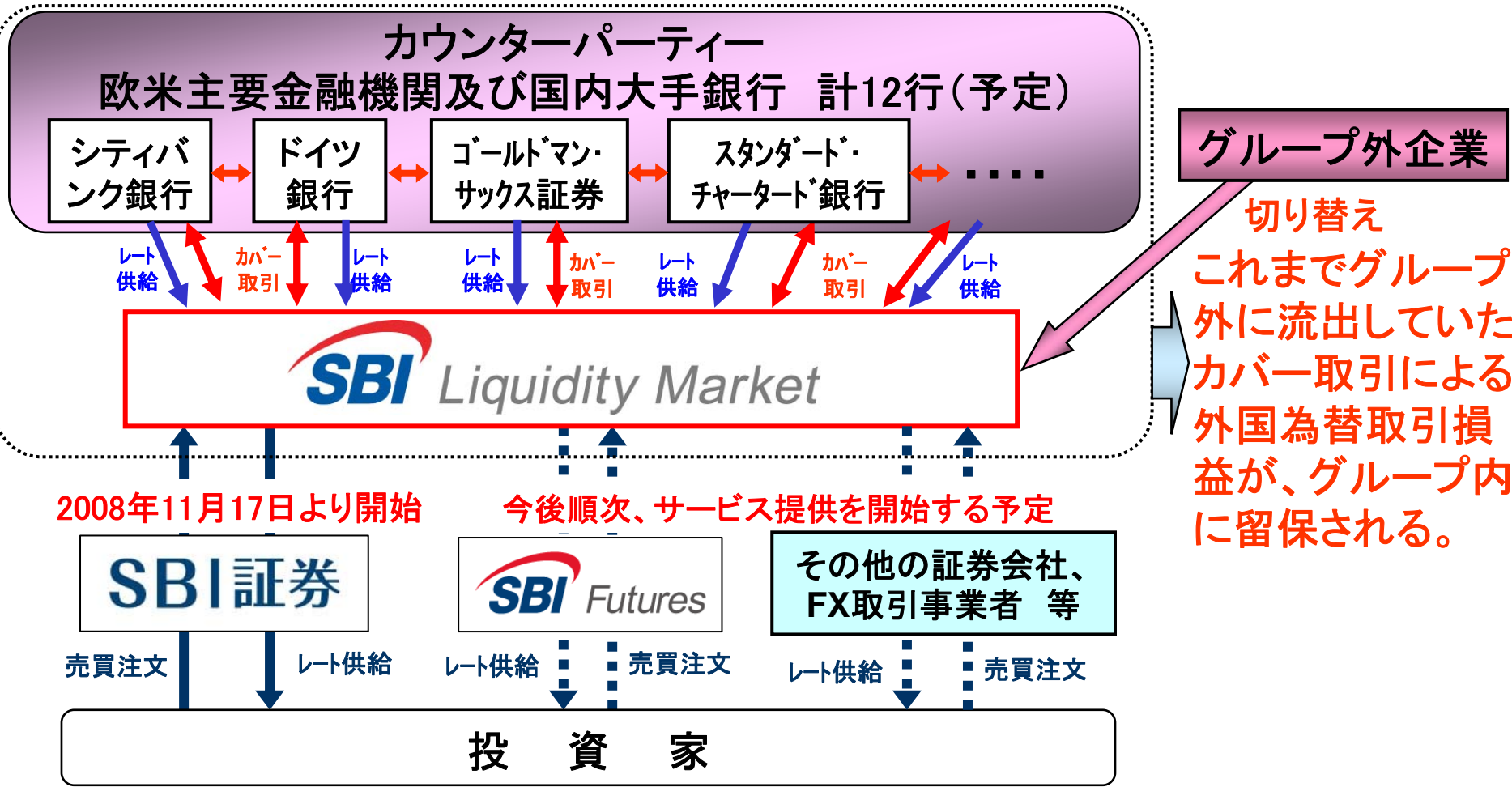
カブコム
8,769億円
(9%増)

マネックス
6,799億円
(29%増)

※データが開示されたSBI証券、マネックス証券、松井証券、カブドットコム証券の4社

出所:各社ホームページ等公表資料より当社にて集計

SBIリクイディティ・マーケットの設立による 新たな収益源の獲得



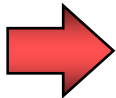
将来的には、FX以外の商品(海外株価指数、金、原油等)を対象とする店頭デリバティブ取引を総合的に提供

SBIリクイディティ・マーケットを活用した SBI証券における新たなFX取引『SBI FX α』の サービス開始

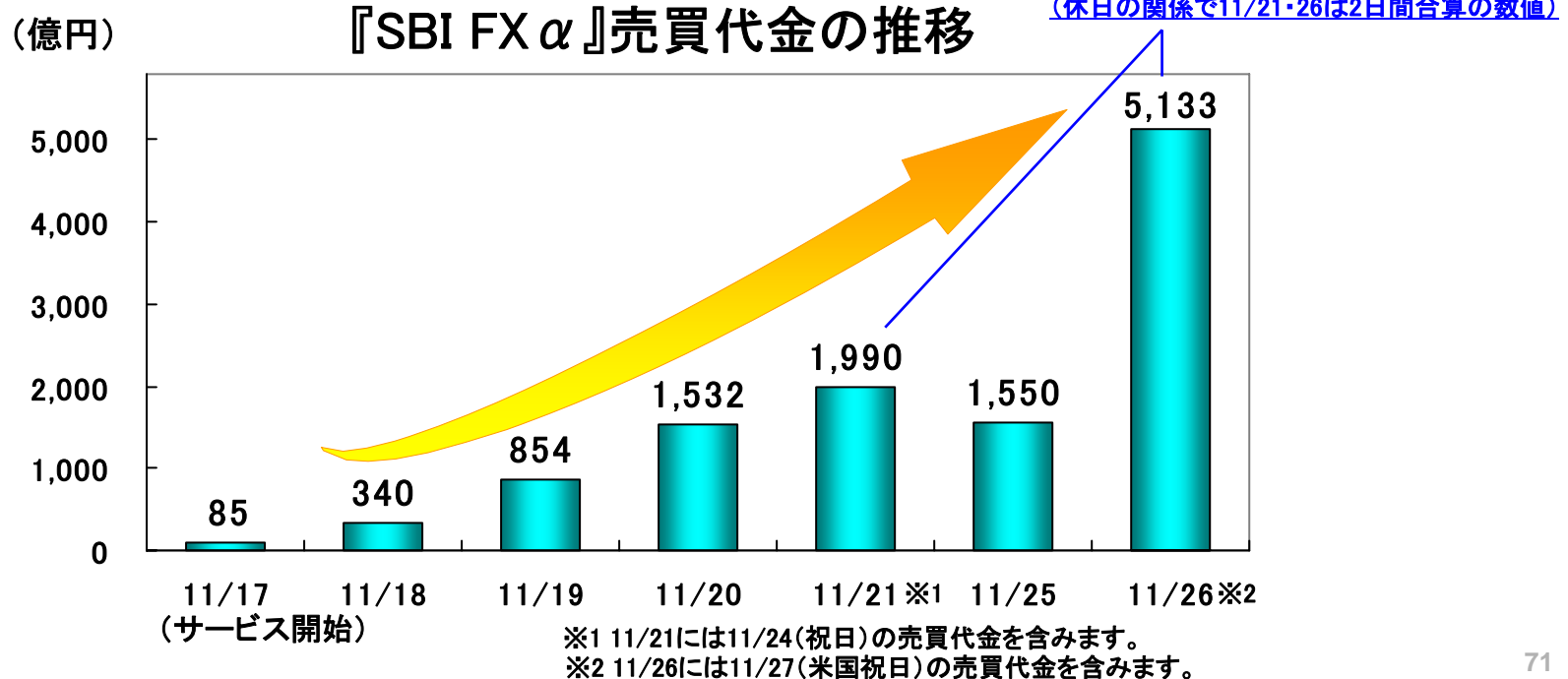
従来よりサービス内容を大幅に拡充して、11月17日からサービス開始

- 大手ネット証券※最多の20通貨ペアの取り扱い
- レバレッジの選択肢を拡大
- 従来 of 10分の1 of 1,000通貨単位での取引が可能な「SBI FXミニ」を新設
- 注文方法を追加し、多様な注文パターンに対応

※SBI証券、カブドットコム証券、松井証券、マネックス証券、楽天証券の5社



目標利益寄与額: **約8億円** (2009年3月期 営業利益)



主要オンライン証券各社が提供する FX取引のサービス比較

主要オンライン証券各社の中で、最低水準のコストで最多の通貨ペアを取扱

	通貨ペア数	上段:スプレッド 下段:手数料(1万通貨取引時)		
		米ドル-円	ユーロ-円	ポンド-円
SBI(SBI FX α)	20	2銭	4銭	8銭
		無料		
マネックス(FX PLUS)	12	数値公表なし		
		200円		
松井(NetFx)	9	4銭	4銭	10銭
		200円		400円
カブコム	12	4銭	4銭	10銭
		200円		
楽天(楽天FX)	10	2銭	4銭	8銭
		無料		

※ 各社ホームページ等公表資料より当社にて集計
スプレッドは通常時

第3部 中期的に大いなる飛躍を目指した打ち手

- (1) 株式相場反転時の大いなる飛躍を目指した
SBI証券におけるマーケットシェアの拡大
- (2) SBIモーゲージの実行残高積み上げと
フランチャイズによる多店舗展開
- (3) 株式市場の影響を比較的受けにくい
バイオ関連事業の育成
- (4) アセットマネジメント事業の海外展開の継続

(1) 株式相場反転時の大いなる飛躍を目指した SBI証券におけるマーケットシェアの拡大

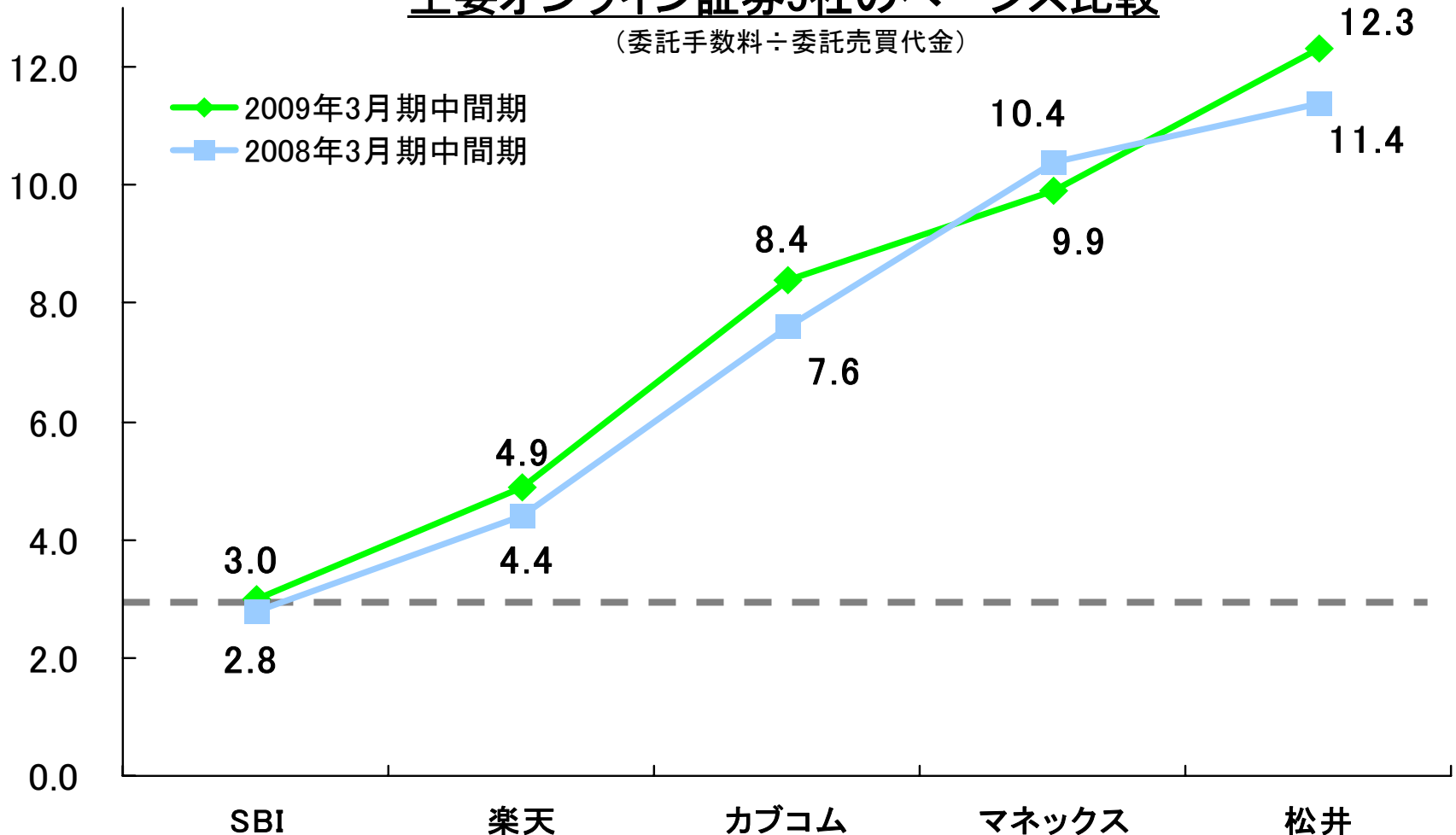
主要オンライン証券のベースス比較

手数料体系に変更はないものの、1約定あたり売買代金の低下に伴いベーススが上昇

(ベースス)

主要オンライン証券5社のベースス比較

(委託手数料 ÷ 委託売買代金)

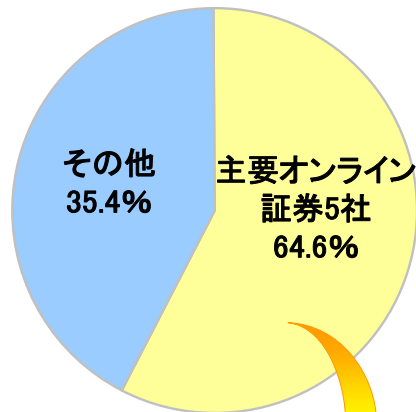


出所: 各社決算資料、月次開示資料等より当社作成
委託手数料は決算短信より単体数値を使用
SBI証券はインターネット部門のみの数値を使用

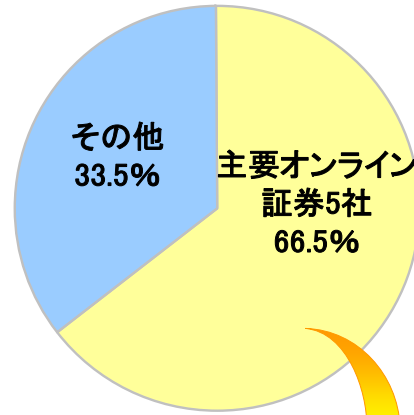
主要オンライン証券の 個人株式委託売買代金シェア

個人株式委託売買代金シェアの推移

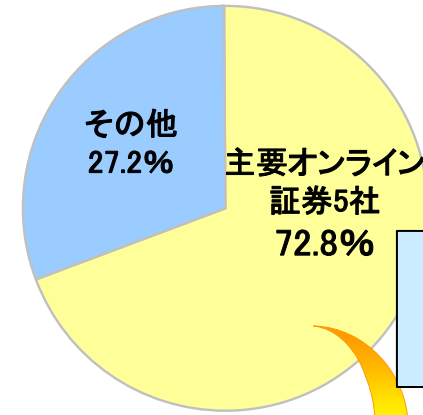
2007年3月期 中間期
(2006年4月～2006年9月)



2008年3月期 中間期
(2007年4月～2007年9月)



2009年3月期 中間期
(2008年4月～2008年9月)



2008年9月単月
過去最高の
45.4%を達成

SBI証券	28.8%
楽天証券	13.7
松井証券	9.5
マネックス	6.6
カブドットコム	6.0

SBI証券	34.1%
楽天証券	13.0
松井証券	7.7
マネックス	6.0
カブドットコム	5.7

SBI証券	38.0%
楽天証券	14.4
松井証券	7.7
マネックス	6.8
カブドットコム	6.1

10月単月
35.4%

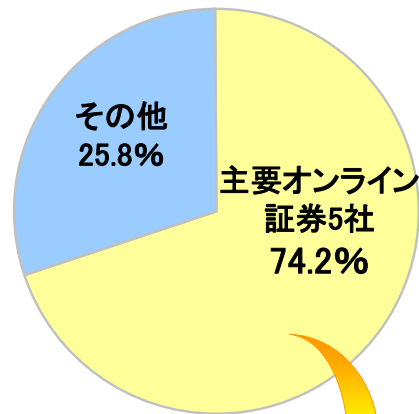
出所：東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計
※ 個人株式委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算

SBI証券はインターネット取引のみで算出

主要オンライン証券の 個人信用取引委託売買代金シェア

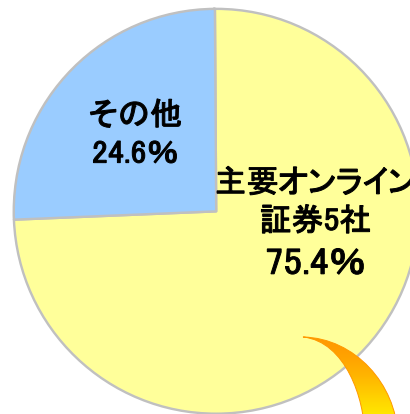
個人信用取引委託売買代金シェアの推移

2007年3月期 中間期
(2006年4月～2006年9月)



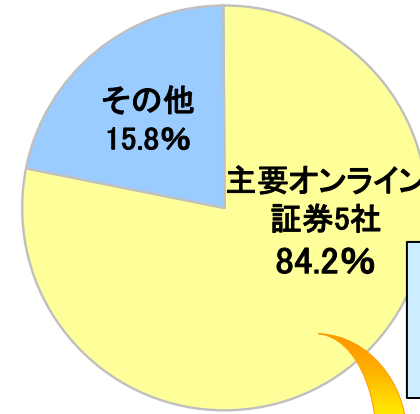
SBI証券	33.9%
楽天証券	14.7
松井証券	12.1
カブドットコム	7.3
マネックス	6.2

2008年3月期 中間期
(2007年4月～2007年9月)



SBI証券	38.8%
楽天証券	15.2
松井証券	9.1
カブドットコム	6.6
マネックス	5.8

2009年3月期 中間期
(2008年4月～2008年9月)



SBI証券	44.1%
楽天証券	17.4
松井証券	8.6
マネックス	7.2
カブドットコム	6.9

2008年9月単月
過去最高の
50.8%を達成

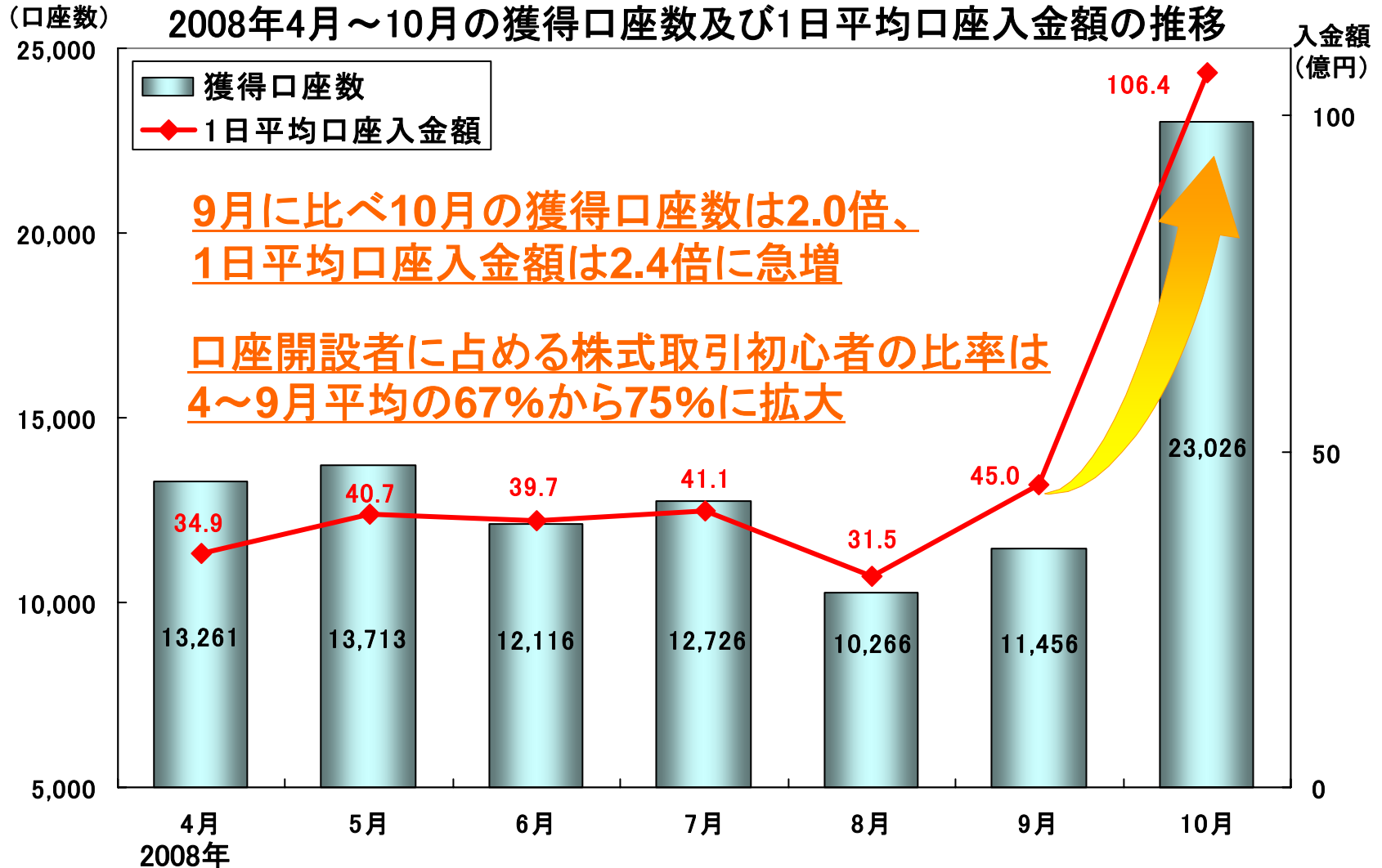
10月単月
41.1%

出所：東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計
※ 個人信用取引委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算

SBI証券はインターネット取引のみで算出

SBI証券における顧客基盤が急拡大

低迷する株式相場を投資の好機と捉えた口座開設及び口座への入金が増
また株式取引初心者による口座開設が増加しており、投資家の裾野も拡大

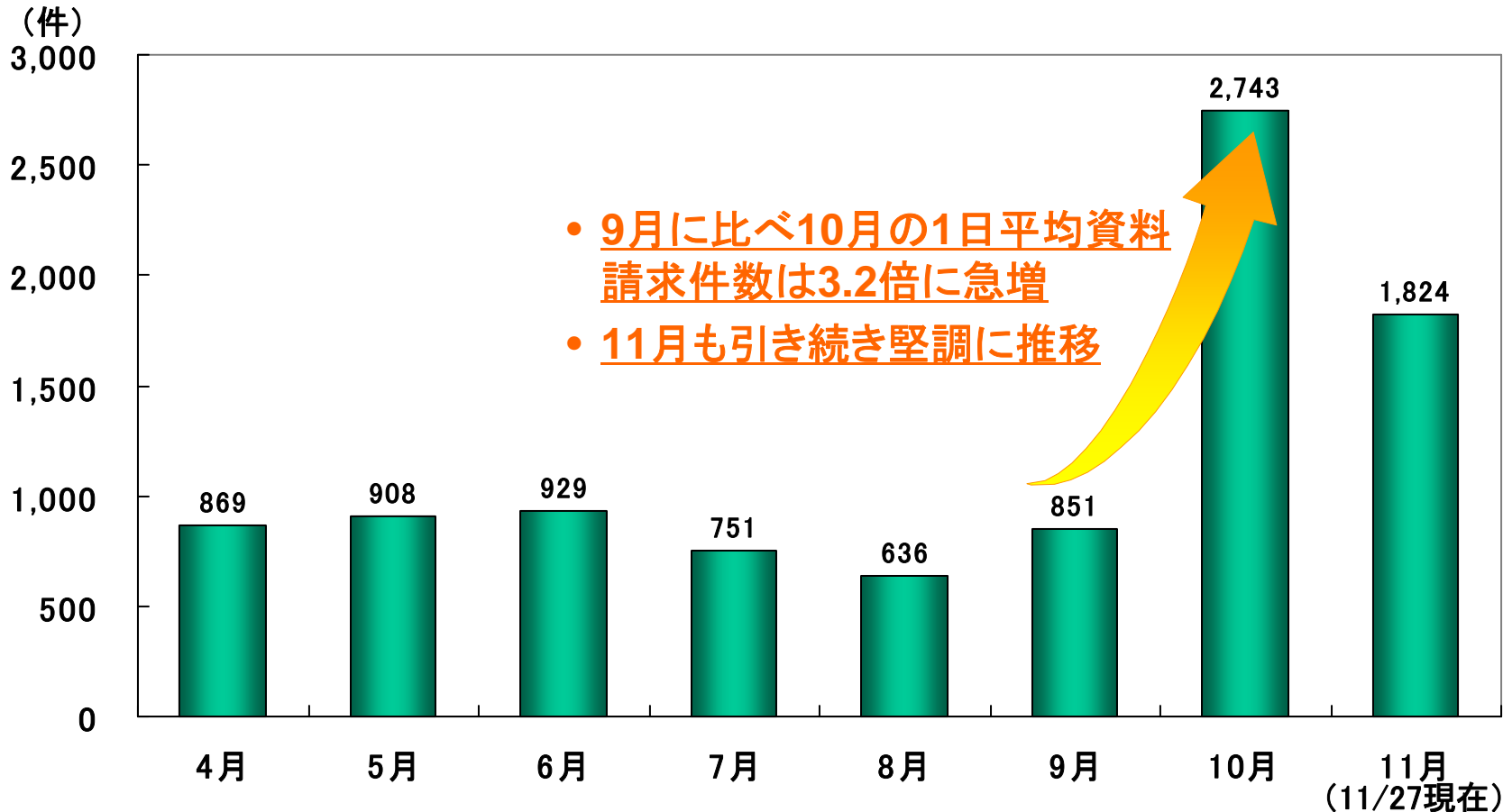


口座開設の申込は10月以降高水準を持続

- テレビCM開始(10/1)によるSBIブランドの訴求
- 低迷する株式相場を投資の好機と捉える

口座開設の申込急増

SBI証券における1日平均の口座開設資料請求件数の推移



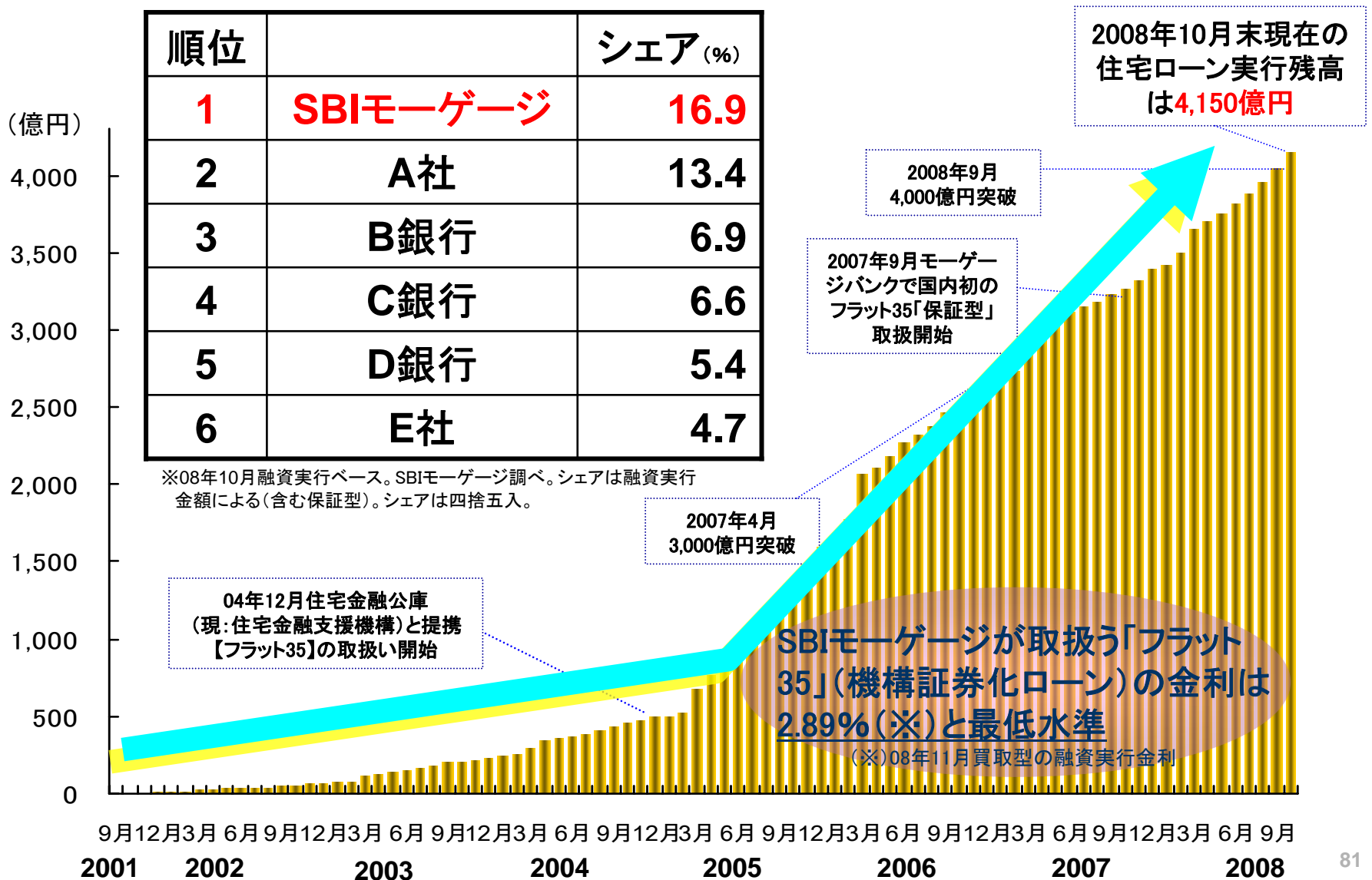
(2) SBIモーゲージの実行残高積み上げと フランチャイズによる多店舗展開

順調に残高を積み上げるSBIモーゲージ

08年10月「フラット35」シェア順位

順位		シェア (%)
1	SBIモーゲージ	16.9
2	A社	13.4
3	B銀行	6.9
4	C銀行	6.6
5	D銀行	5.4
6	E社	4.7

住宅ローン実行残高推移



加速する「SBI住宅ローンショップ」の展開

2007年2月以降の全国的な店舗展開は、**2008年よりさらに加速**

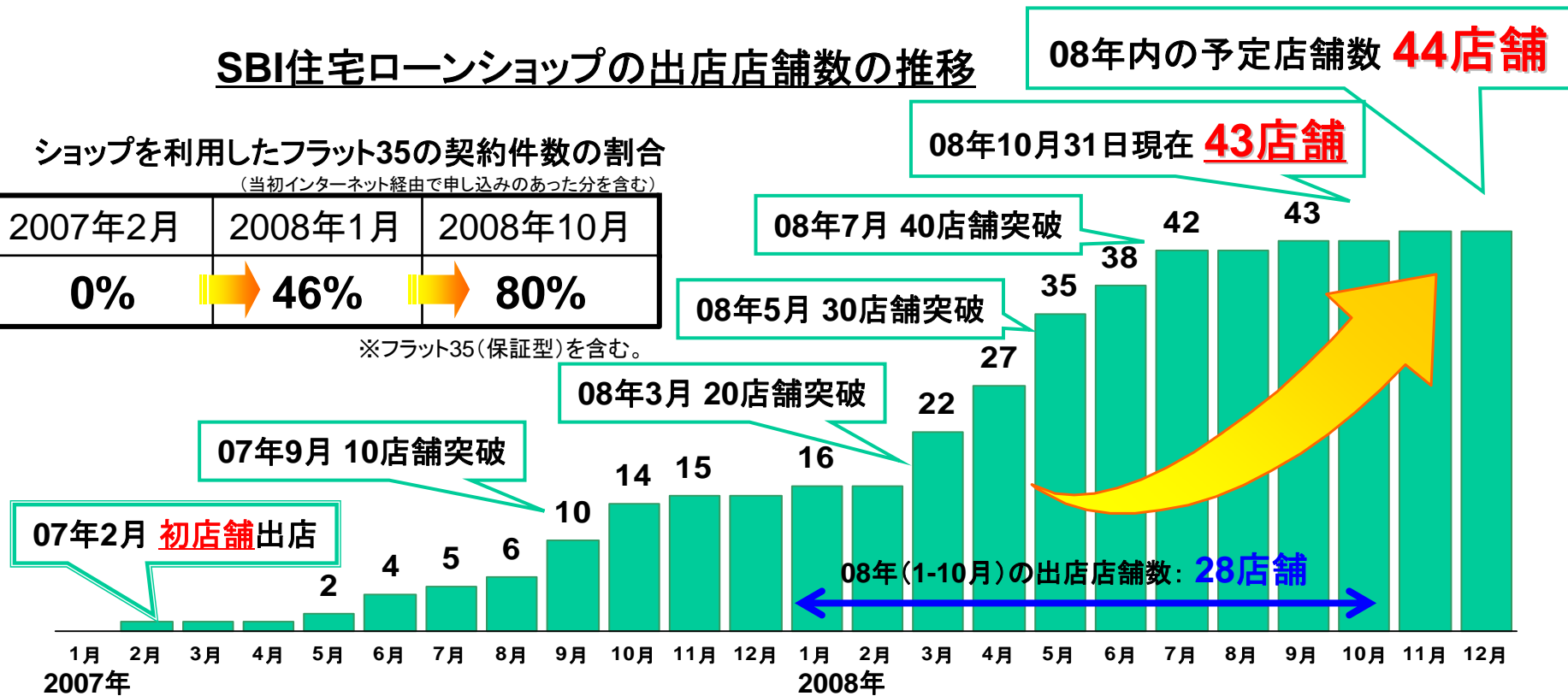
SBI住宅ローンショップの出店店舗数の推移

08年内の予定店舗数 **44店舗**

ショップを利用したフラット35の契約件数の割合
(当初インターネット経由で申し込みのあった分を含む)

2007年2月	2008年1月	2008年10月
0%	→ 46%	→ 80%

※フラット35(保証型)を含む。



- ・住宅ローン以外に金融商品ラインナップを拡大(7月より生命保険商品の販売を開始)
- ・株式市況の低迷を鑑み、上場時期を延期予定
- ・SBI証券との共同店舗を検討
- ・SBI損保の自動車保険商品の取り扱いを準備中

(3) 株式市場の影響を比較的受けにくい バイオ関連事業の育成

【SBIバイオテック】

バイオ産業の発展を促す3つのグローバル要素

Global Researcher Networkの活用

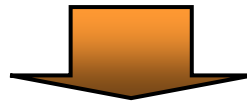
SBIバイオテック代表取締役の新井博士(元東京大学医科学研究所所長)を中心に、世界の研究者のネットワークを活用した創薬シーズの発掘

Global Marketing Channelの活用

各国バイオ企業との提携を通じて、創薬に成功した製品の世界規模での販売を目指す

Globalな許認可取得体制の構築

各国バイオベンチャーとの提携を通じて、最も許認可を取得するのに適している国での早期許認可取得を目指す



これら3つのグローバル要素の結集により、創薬の継続的フローを実現し、認可の取得しやすい国で認可を得、グローバルなマーケティングにより売上増を図る。最終的には日本の代表的なバイオ企業とするべく、SBIバイオテックを設立

SBIバイオテックが創薬事業への進出を本格化



米国、中国、韓国の有力な製薬会社やバイオベンチャー企業との契約を締結



●9月、英製薬大手アストラゼネカの米国バイオ子会社・メイミューン(MedImmune)と抗ILT-7抗体に関するライセンス契約を締結、開発販売権を供与。今後メイミューンは米国での臨床試験に取り組み、関節リウマチなどの自己免疫疾患の治療薬として開発へ。



●10月、米国のベイラー研究所(Baylor Research Institute)と樹状細胞療法に関するライセンス契約締結をリリース、日本を含むアジア地域での権利を取得。がん細胞を攻撃する樹状細胞療法について共同研究に取り組む。



●10月、中国バイオテック企業の長春華普生物技術有限公司(Changchun Huapu Biotechnology)と3種類の核酸医薬の新薬候補導入の契約締結をリリース。がんや自己免疫疾患等の治療薬を目指して開発を進め、適応症に応じて日・米・中で臨床試験予定。



●10月、韓国のバイオベンチャー企業のヘリクシール社(Helixir)とサルナシ抽出エキスPG102を機能性食品として開発・販売するライセンス契約締結をリリース。アトピー性皮膚炎や花粉症、鼻炎、喘息、食品アレルギー等アレルギー性疾患への適応が期待できる。

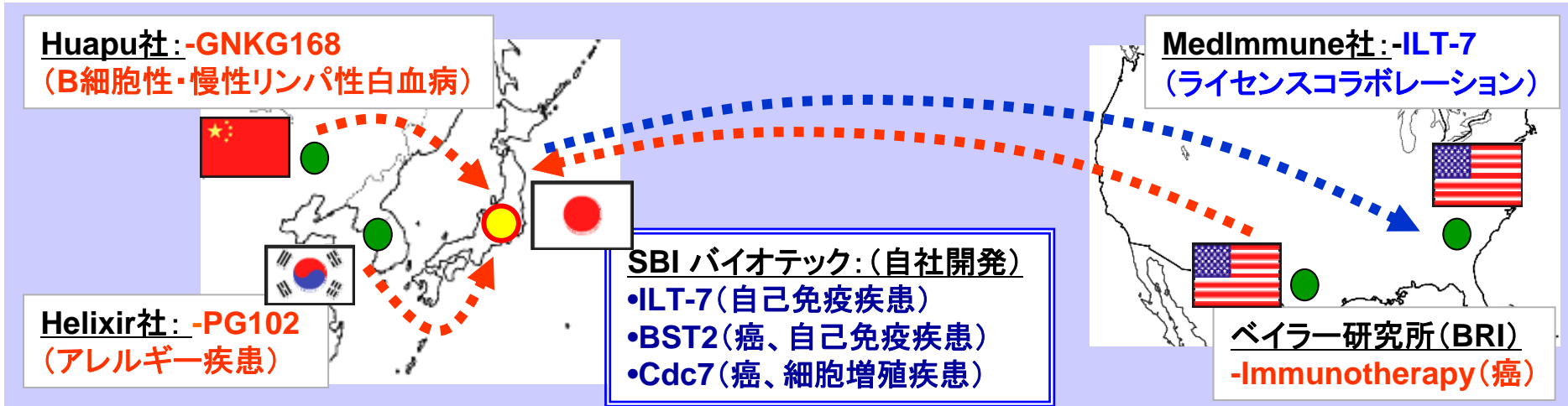


各国バイオベンチャー企業から提供された有望創薬シーズの基礎・臨床開発・医薬製品化を手掛ける

SBIバイオテックのプロジェクト開発スケジュール

日・米・中・韓の世界的研究拠点や研究者を有するSBIバイオテックは、「複数」のパイプラインと世界的なネットワークを強みにグローバルな事業展開へ

【創薬パイプライン】



【開発スケジュール】

前臨床試験・薬事対応
 臨床第 I 相試験
 臨床第 II 相試験
 臨床第 III 相試験

	2008	2009	2010	2011	2012
ILT-7	ライセンス・コラボレーション	前臨床試験・薬事対応	臨床第 I 相試験	臨床第 II 相試験	臨床第 III 相試験
BST2		前臨床試験・薬事対応	臨床第 I 相試験	臨床第 II 相試験	臨床第 III 相試験
Cdc/ASK		前臨床試験・薬事対応	臨床第 I 相試験	臨床第 II 相試験	臨床第 III 相試験
GNKG168	前臨床試験・薬事対応	臨床第 I 相試験	臨床第 II 相試験	臨床第 III 相試験	臨床第 III 相試験
BRI	ライセンスイン				
PG102	ライセンスイン				

【SBIアラプロモ】

SBIアラプロモでの商品開発等の進捗状況

コスモ石油と共同で「5-アミノレブリン酸」(5-ALA)の開発及び、
関連製品の市場拡大を図ることを目的として、2008年5月27日合弁契約を締結

「5-ALA」は、脳腫瘍の術中診断や癌のスクリーニング、貧血予防、
肌荒れやアトピー対策など、多様な用途が期待されている。



<研究開発 進捗状況>

- ◆ **化粧品**: 製造販売業許可を取得し、販売体制を構築。年内に第一弾商品を販売予定。
- ◆ **治療薬**: 共同開発のため、年度内に海外企業との合弁会社設立を目指す。
- ◆ **診断薬**: 国内複数企業と提携交渉中。
- ◆ **健康食品**: 特定保健用食品の許可取得に向け、臨床試験実施中。

【その他バイオ関連出資先】

今後収益が期待されるバイオ関連出資先企業

クオーク・ファーマシューティカルズ社 (SBIグループ出資比率: 24.87%)

- RNA干渉 (RNAi) をベースとした新薬の開発
- 2006年9月に米国ファイザー社と加齢黄斑変性症を対象疾患とする合成分子 (PF-4523655) に関するライセンス契約を締結した。ファイザーから支払われるライセンス料は600百万ドルを超える規模となる。
- 2008年7月に糖尿病性黄斑浮腫に対象拡大し、ライセンス料を受領した。開発ステージはフェーズ II 試験へ前進。
- 2008年10月に、ジョンズ・ホプキンス大学医学部ビスウエル教授との共同研究である、siRNA が非小細胞肺癌関連遺伝子の成長を抑制に有効であることを示す論文をCancer Research 誌に同社が発表した。新しい抗がん剤として利用できる可能性。
- 2008年11月、SBIH取締役執行役員の松井一幸が同社役員に就任。
- 株式市場への新規上場のみならず、国内外大手製薬会社へのM&AによるExitも検討中。

アキュセラ社 (SBIグループ出資比率: 26.34%)

- 眼科疾患の新薬開発
- 2008年9月に大塚製薬とドライ型加齢黄斑変性症を対象疾患とする化合物の導出とドライアイを対象疾患とする点眼薬に関する共同開発契約を締結した。大塚製薬から支払われるライセンス料は最大で258百万ドルとなる。
- 米国NASDAQを含めた新興市場への新規上場を検討中。

(4) アセットマネジメント事業の海外展開の継続

New Horizon Fund の運用状況

2005年5月の運用開始から、投資先10社のうちこれまでに6社が上場。
一部売却により、2008年9月期までに累計**48億円**の利益を計上。

(単位:百万USDドル)

投資先名	投資残高	種類	IPO/M&A 予定	キャピタルゲイン		
				前期末	9/30現在	11/28現在
Sichuan Meifeng Chemical Industry	14.8	A株		63.7	16.3	18.4
Changsha Zoomlion Heavy Industry Science & Technology Development	10.2	A株		144.6	87.8	80.6
China Printing & Dyeing Holding	3.4	IPO		0.2	△1.9	△2.9 [※]
Yingli Green Energy Holding	-	IPO		4.5	-	-
Kingsoft	9.4	IPO		2.3	△0.5	0.1
Goldwind Science and Technology	4.1	IPO		124.9	50.5	48.3
Cathay Industrial Biotech	12.0	プレM&A	2009年下期	79.1	79.1	79.1
China Stem Cells Holdings	4.1	プレIPO	2008年	17.6	17.6	17.6
Jiangsu Ealong Biotech	2.5	プレM&A	2009年下期	5.6	5.6	5.6
Shineway Group	20.4	プレIPO	2010年	15.0	15.0	15.0
合計	81.1			457.5	269.3	261.8

IPO済
時価評価

IPO/M&A
未済
予想評価

(約458億円) (約279億円) (約250億円)

※10月8日終値ベース(同日、シンガポール証券取引所が「取引売買停止」を発表したため)

【受領分配金見積額】(11/28現在の見込み)

2008年度 53億円 分配金受領の時期は、ロックアップの外れる08年末以降本格化する見込み

2009年度 45億円

2010年度 66億円 総分配予定額 164億円

現在及び将来上場もしくは売却する株式の予想時価から見積もった金額で、これら分配金額が確定しているわけではありません。


投資待機中の既存海外ファンド(1)

05年より運用開始

08年3月より
運用開始

08年12月より
運用開始予定

正式契約書締結
へ向けた最終段階

ファンド名称	New Horizon Fund	清華大学ファンド	北京大学ファンド	中国三社との 共同ファンド
進捗状況	出資先10社のうち6社 IPO済。08年中には1社 がIPO予定。	外資との合併ファンド 設立は北京で初。2件投 資実行済。	契約締結及び政府認可 取得済。中国の有望な 未上場企業に投資予定。	08年6月ファンド設立基本合 意。4社共同設立の運用会社 を通じて中国の未上場企業に 投資予定。
パートナー	TEMASEK	清華 ホールディングス	北京大青鳥環宇	・招商証券 ・源裕投資 ・中信銀行
投資対象国	中国 			
投資対象	非流通株及び 未上場企業	国内未上場企業	企業ないし 不動産関連	製造業、消費財産業、サー ビス産業、小売産業、物流と 輸送業、エネルギーと資源 産業
出資金額 (単位:百万USD ドル)	100 (当社出資比率 50%)	30 (当社出資比率 99%)	100 (当社出資比率 50%)	Offshore: 約50 (SBIH) Onshore: 約21 (中国側)




投資待機中の既存海外ファンド(2)

正式契約書を
08年12月半ば締結予定

08年4月より
運用開始

08年4月より
運用開始

08年6月より
運用開始

ファンド名称	SBI-METROPOL Investment Fund	India Japan Fund	Vietnam Japan Fund	SBI SOI Fund
進捗状況	正式契約書締結の最終合意済。 <u>成長性の高いロシアの上場・未上場企業に投資予定。</u>	<u>インドに拠点を持つ上場・未上場企業に投資予定。2件投資実行済。</u>	ベトナム通貨建て ファンド、ベトナムの上場・未上場企業に投資予定。 <u>上場企業2銘柄に投資決定済。</u>	08年6月ファンド設立。 <u>アジアの大学発ビジネスに投資予定。</u>
パートナー	IFC METROPOL	インド 国営銀行	FPT	慶応大学
投資対象国	ロシア 	インド 	ベトナム 	アジア
投資対象	・未上場企業(70%) ・上場企業(30%)	・未上場企業(70%) ・上場企業(30%)	・未上場企業 ・上場企業	大学発 ベンチャー企業
出資金額 (単位:百万USDドル)	100 (当社出資比率50%)	100 (当社出資比率 95%)	100 (当社出資比率 90%)	5億円 (当社出資比率100%)




第2四半期中に合意した4つの新ファンド

正式契約書を
08年12月中旬締結予定

08年10月より
運用開始

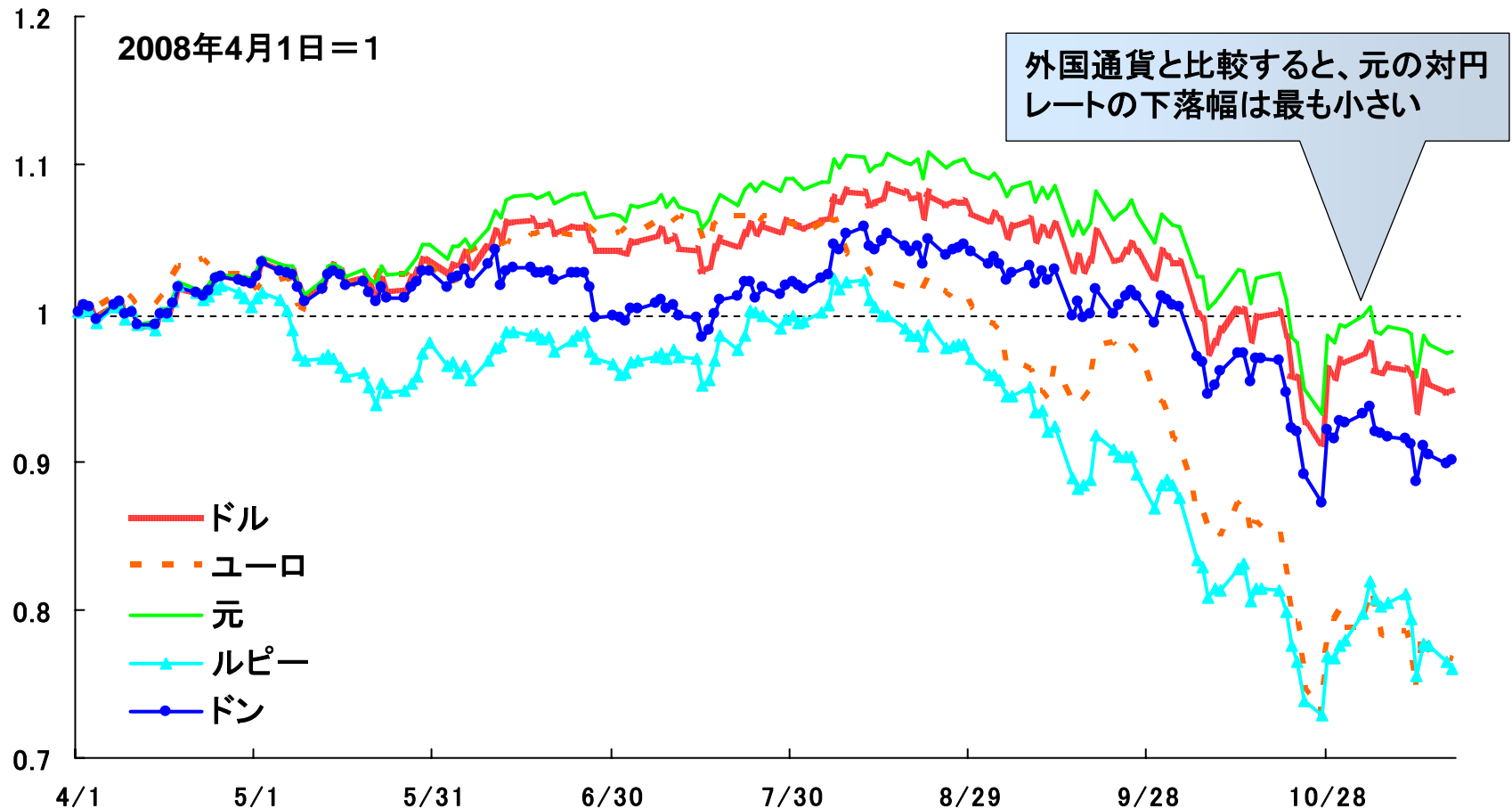
08年11月より
運用開始

08年内
運用開始予定

ファンド名称	Hungary Fund	Fullerton Asia Financials Fund	台湾ファンド	SBI PRIVATE EQUITY FUND
進捗状況	08年8月ファンド設立基本合意。	08年10月に共同設定。	08年10月に設立済。	08年内設立予定。
パートナー	MFB Invest Ltd.(ハンガリー開発銀行の100%子会社)	Fullerton Fund Management Company Ltd(シンガポール政府系投資会社TEMASEKの100%子会社)	台湾のIT企業創業者	—
投資対象国	ハンガリー  と周辺の中東欧諸国	アジア主要国	台湾及び中国 	韓国 
投資対象	中東欧諸国における未上場及び上場企業	銀行等の上場金融機関	台湾及び中国の未上場企業	上場金融機関や韓国に多数存在する財閥の系列企業
出資金額	100 mill. EUR (当社出資比率60%)	60 mill. USD (当社出資比率 50%)	22.5 mill. USD (当社出資比率66.7%)	100-300 bill. KRW

各国通貨の対円為替レートの推移 (2008年4月～11月)

現在の為替は円の独歩高であり、投資待機中の海外ファンドの外国通貨建て出資予定金額は円ベースにおいて約15%の大幅減(08年11月時点)。一方で、収穫期に入った“New Horizon Fund”の分配金見積額は、下落幅の小さい元建てのためほとんど変わっていない



市況の下落局面を好機として、韓国で新たに 設立する“SBI PRIVATE EQUITY FUND”

“SBI Private Equity Co., Ltd.”がGPとなり、株式市場が大きく下落している韓国にて、過小評価された現地企業に対し、企業再生及び事業構造改善による企業価値向上を目的に投資



SBI PRIVATE EQUITY FUNDの概要(予定)

会長: 李 徳勲 (Lee Deok Hoon)

(前韓国銀行・金融通貨委員会委員、元韓国ウリィ銀行頭取)

投資対象

- ▶ 企業再生及び事業構造の改善による価値向上が可能な企業(金融業中心)
- ▶ 成長性の高い優良中小企業

規模

- ▶ 今期末までに1000億韓国ウォン規模で立ち上げ
- ▶ 最大3000億韓国ウォンまで募集

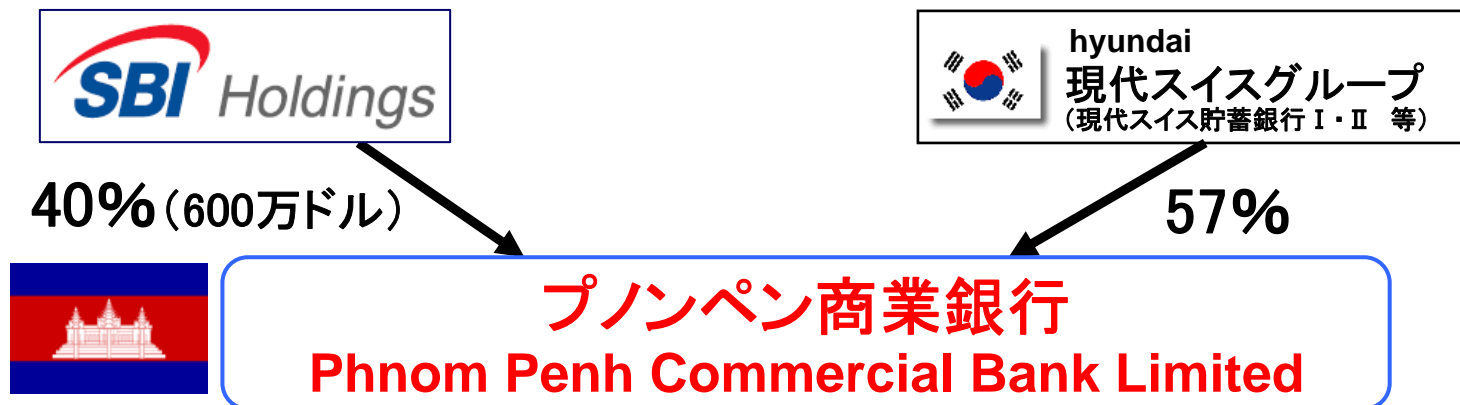
投資戦略

- ▶ 財務・事業面でのターンアラウンド
- ▶ SBIグループのネットワーク・シナジーの活用

2008年9月1日 カンボジアで商業銀行を開業

～中国からも工場移転が進みつつある同国における布石～

SBIグループと韓国・現代スイスグループが共同出資によりカンボジアに設立した銀行が8月27日にカンボジア金融監督庁より正式認可を取得
同国での銀行設立は日本の金融グループとしては初



預金運用業務、不動産関連のプロジェクトファイナンス業務、融資業務等

2009年下期 カンボジア証券取引所が開設予定

経済発展と日本企業を含む外国企業の進出拡大が期待されている

カンボジアに進出する外国企業にも融資業務を行なう予定

<http://www.sbigroup.co.jp>